

平成 27 年度
東日本大震災復興支援事業

東日本大震災復興支援事業 実施報告書



平成 28 年 3 月



公益社団法人 日本看護協会
Japanese Nursing Association

目 次

平成 27 年度東日本大震災復興支援事業	3
Ⅰ. 事業の概要	5
Ⅱ. 事業の実施	5
1. 日本看護学会における学会参加支援	7
1) 概要	9
2) 目的	9
3) 支援対象	9
4) 対象領域と開催地	9
5) 実施内容	10
6) 募集方法	10
7) 参加者の決定と参加状況	10
8) 懇親会の開催	10
9) 特別企画「東日本大震災復興支援ブース ～被災地からの発信 命と暮らしを支える看護～」	10
10) アンケート結果	14
11) まとめ	25
2. ヘルスプロモーションにおける交流集会「災害支援とまちづくり」の開催	27
1) 概要	29
2) 目的	29
3) 開催場所と日時	29
4) テーマと実施内容	29
5) アンケート結果	30
3. 保健師の実践力強化に向けた事例検討会定着化のための支援	35
1) 概要	37
2) 目的	37
3) 支援対象	37
4) 事業実施期間	37
5) 実施内容	37
6) 結果	37
7) まとめ	41
4. 様々な取り組み	43
1) 被災 3 県看護協会との情報交換会	45
2) 協会ニュース「復興に向かって～看護の力」の連載	45
3) 座談会「東日本大震災から 5 年。復興を支えた看護の力」の実施	46
4) 各フォーラム等への参加	47
Ⅲ. 東日本大震災復興支援事業の今後の課題	50
Ⅳ. おわりに	50
参考資料	51

平成 27 年度東日本大震災復興支援事業



I. 事業の概要

東日本大震災・原子力発電所事故の被災地では、被災者のニーズに合わせたケアの包括的かつ継続的な提供が求められている。被災地の看護職には、保健・医療・福祉の連携、看護提供体制の確立等、質的にも高度な実践が求められているにも関わらず、人員不足や経費上の理由で、十分な研修等を受ける機会が確保されていると言い難い現状におかれている。そのため、引き続き被災した看護職の教育支援として日本看護学会学術集会への参加支援を行う。

また、震災から4年が経過する中、被災後における継続した看護のあり方や準備性を確保し、被災地における看護職を共有するため日本看護学会「ヘルスプロモーション」において交流集会を開催する。

また、これまで、本会が中心となり福島県相双地域の自治体等における保健師を対象として、被災者支援のための事例検討会を開催してきた。平成27年度からは福島県相双地域の自治体等における保健師の人材育成の体制づくりの一環として、被災地の県・保健所等が中心となって事例検討会が実施できるような支援を行う。

平成27年度東日本大震災復興支援事業の目的

1. 被災地における看護職の人材育成

1) 日本看護学会学術集会への参加支援

被災地の看護職が、職務を離れ、他の看護職らが多数、参集する学会の場で、災害時における自らの災害時看護体験を語ることで、カタルシスを得るだけでなく、自らの体験を意味づけながら、看護実践を質的に深め共有する。

2) 事例検討会の開催支援

県・保健所保健師が中心となって、福島県相双地域（原発避難地域）における保健師実践力強化のための事例検討会が開催できるような支援を行う。

2. 被災後における看護実践等の共有

1) 日本看護学会交流集会の開催

被災後、中長期的な心のケアをはじめ、地域住民のつながりの再構築が重要である。地域の実情を理解し、復旧・復興に向け、中長期的に継続して人々を支援し、まちづくりも視野に健康で安心な暮らしを再構築する看護活動のあり方を、ヘルスプロモーションの視点から考える。

2) 成果の発表

平成26年度に実施した被災地調査の結果や、これまでの本会取り組みに基づく提言等を取りまとめ普及を図る。

II. 事業の実施

平成27年度は、被災地看護職の教育支援として「日本看護学会学術集会への参加支援」「事例検討会の開催支援」、また被災後の看護実践等の共有として「日本看護学会での交流集会の開催」を実施した。それぞれの事業については、次項より報告する。

1. 日本看護学会における学会参加支援



1) 概要

被災した看護職の教育支援として、日本看護学会学術集会への参加を支援した。日本看護学会学術集会 7 領域の中から、「慢性期看護」「精神看護」「在宅看護」「ヘルスプロモーション」の 4 領域への参加を募り、応募のあった岩手・宮城・福島県の看護職に対し参加費用等の支援を行った。

平成 26 年度と同様、学会への参加のみならず、自身の体験を口頭で発表する機会や来場者との意見交換の場をつくることで、看護の振り返りやさらなる質の向上および被災地で働き続ける意欲の向上を図るとともに、被災後の看護活動について全国へ発信する機会とすることを狙いとした。

各会場には東日本大震災復興支援ブースを開設し、参加者が自らの被災体験や看護活動について発信する機会を設け、被災地の現状を伝えることができた。また参加者同士の交流を図ることができた。

2) 目的

- (1) 日本看護学会に参加し最新の看護の動向にふれることで、新たな看護への魅力を見出すことができる
- (2) 自身の看護実践について発表機会をもつことで、自身の看護を振り返り、看護活動への意欲の継続・向上を図る
- (3) 参加者同士で意見交換を行うことで、新たな知見が得られ復興の示唆となる。また課題を抽出し、今後の本会の中・長期的支援活動につなげる。

3) 支援対象

岩手県、宮城県の沿岸部と福島県全域（87 市区町村）の医療機関に所属している（または、していた）看護職約 60 名（本会の会員・非会員は問わない）。

岩手県	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市
宮城県	気仙沼市、南三陸町、石巻市、女川町、東松島町、松島町、利府町、塩釜市、七が浜町、多賀城市、宮城野区、若林区、名取町、岩沼市、亘理町、山元町
福島県	全域

4) 対象領域と開催地

9/2 (水) ～ 3 (木)	慢性期看護	(福島県 郡山市)
9/18 (金) ～ 19 (土)	精神看護	(大阪府 大阪市)
10/2 (金) ～ 3 (土)	在宅看護	(愛知県 名古屋市)
11/6 (金) ～ 7 (土)	ヘルスプロモーション	(富山県 富山市)

5) 実施内容

(1) 支援内容：日本看護学会学術集会への参加に係る費用の支援を行った。

- ① 学会参加費 無料
- ② 交通費 県及び開催地ごとに定額支給
- ③ 宿泊費 定額支給（¥11,000）とし1泊分のみ支給
- ④ 雑費 定額支給（ ¥3,000） 起点駅までの交通費として

6) 募集方法

- ・ 岩手県、宮城県の沿岸部および福島県全域の医療機関等施設へ郵送にて案内を送付した。
（岩手県：56カ所、宮城県：133カ所、福島県：332カ所、計521カ所）
- ・ 本会公式ホームページへも募集案内を掲載した。
- ・ 募集期間
2015年4月16日～5月15日

7) 参加者の決定と参加状況

- ・ 募集定員60名に対し、77名応募があった。
- ・ 参加辞退が3名あり、74名が事業に参加した。
- ・ 以下、各領域の参加人数

領域	参加人数(県・人数)				職種			備考
	岩手	宮城	福島	合計	保健師	助産師	看護師 (准看護師)	参加辞退
慢性期看護	5	5	9	19		1	18	1
精神看護		6	8	14	5		9	
在宅看護	3	7	4	14	2		12	2
ヘルスプロモーション	2	18	7	27	10	6	11	
合計	10	36	28	74	17	7	49	3

8) 懇親会の開催

- ・ 日本看護学会学術集会の各領域において、学術集会1日目もしくは2日目の昼食時に、約1時間の懇親会を開催した。
- ・ 懇親会には、各領域に参加した看護職および日本看護協会の事務局などが参加した。
- ・ 参加者間で自己紹介をし、情報交換や現状の共有など終始なごやかに懇談することができた。

9) 特別企画

「東日本大震災復興支援ブース～被災地からの発信 命と暮らしを支える看護～」

- ・ 岩手県、宮城県、福島県看護協会における被災後の看護活動および、本会における東日本大震災復興支援事業について作成したパネルを展示した。
- ・ 事業参加者は交代で自身の看護活動をテーマに約10分程度の発表を行った。
- ・ 被災地の看護職に向けたメッセージ箱を設置し、64通のメッセージが投函された。

■実践発表のテーマ

施設名		参加領域
テーマ		
ふれあいおおつち訪問看護ステーション		
震災から5年目の今、訪問看護ステーションでは…		在宅看護(愛知)
医療法人 希望会 希望ヶ丘病院		
東日本大震災を経験して		慢性期看護(福島)
医療法人 勝久会 介護老人保健施設 松原苑		
①震災～現在の老健看護について ②震災後の訪問診療の取り組みについて		在宅看護(愛知)
震災後～現在までの老健の看護について		慢性期看護(福島)
岩手県立釜石病院		
岩手県三陸沿岸に住む妊婦の災害の備えに関する現状		ヘルスプロモーション(富山)
独立行政法人 国立病院機構釜石病院		
『東日本大震災を体験して』 ～4年目の振り返り～		慢性期看護(福島)
NTT 東日本東北病院		
東日本大震災時における看護師就労確保の取り組み		ヘルスプロモーション(富山) 在宅看護(愛知)
ケアステーションしおかぜ		
東日本大震災から学んだ災害対策		在宅看護(愛知)
医療法人 海邦会 鹿島記念病院		
震災後の精神科病院での実態		精神看護(大阪)
医療法人 友仁会 松島病院		
東日本大震災の状況とその後の復興		精神看護(大阪)
3.11 当時の看護・現在まで		在宅看護(愛知)
医療法人社団 健育会 石巻健育会病院		
病院勤務の1看護師として震災を経験して		慢性期看護(福島)
塩釜市立病院		
震災を振り返って		慢性期看護(福島)
東日本大震災時の塩竈市立病院における感染対策の実際		ヘルスプロモーション(富山)
～震災を経験して～		在宅看護(愛知)
気仙沼市立病院 NST 室		
気仙沼南三陸栄養サポート研究会の立ち上げ ～震災から4年間の地域スタッフとの歩み～		ヘルスプロモーション(富山)
宮城県看護協会		
南三陸町の被災者支援をとおして		ヘルスプロモーション(富山)
宮城県気仙沼保健福祉事務所		
東日本大震災後の気仙沼圏域での医療と介護の連携について		ヘルスプロモーション(富山)
公立志津川病院		
震災から5年目を迎えて		慢性期看護(福島)
震災後、助産師として働いて		ヘルスプロモーション(富山)
坂総合病院		
災害発生後の在宅患者の状況と震災デクビ		在宅看護(愛知)
石巻市立病院		
石巻市立牡鹿病院での多職種連携		ヘルスプロモーション(富山)
被災によって学んだこと(多職種連携の重要性)		在宅看護(愛知)
石巻赤十字病院		
自宅被災から1週間の避難所での活動		ヘルスプロモーション(富山)
仙台市宮城野区保健福祉センター		
震災から4年半、母子保健活動を中心に		ヘルスプロモーション(富山)
震災から4年、精神保健活動を中心に		精神看護(大阪)

仙台市若林区保健福祉センター	
若林区における震災後こころのケア活動について	ヘルスプロモーション(富山)
東北薬科大学病院	
仮設住宅に退院する患者の退院調整	在宅看護(愛知)
東日本大震災時の対応について	精神看護(大阪)
名取市保健センター	
震災から現在までの活動報告	ヘルスプロモーション(富山)
被災地の今 保健師活動より 一震災からの時間を振り返る、そして今一	精神看護(大阪)
わかば訪問看護ステーション	
東日本大震災を経験して、訪問看護のあり方を考える!	在宅看護(愛知) 慢性期看護(福島)
医療法人 安積保養園 あさかホスピタル	
2000人の避難所でのメンタルケアと他職種でのチームアプローチ	精神看護(大阪)
医療法人 生愛会 附属介護老人保健施設 生愛会ナーシングケアセンター	
東日本大震災を体験して ～看護師の視点から学んだこと、これからの課題～	慢性期看護(福島)
公益財団法人 湯浅報恩会 寿泉堂総合病院 いずみ訪問看護ステーション	
いずみ訪問看護ステーションにおける震災後の取り組み	慢性期看護(福島)
社会医療法人 秀公会 あづま脳神経外科病院	
サポート事業の傾向と今後の対策 ～飯舘村民とのかかわりを通して見えたもの～	ヘルスプロモーション(富山)
星ヶ丘病院	
震災発生から就職、現在に至るまで(仮)	精神看護(大阪)
相馬看護専門学校	
相馬看護専門学校の震災から現在まで	慢性期看護(福島)
大町病院	
大町病院復興の軌跡 ～東日本大震災原発事故を乗り越えて～	慢性期看護(福島)
竹田総合病院	
震災及び原発事故による被災者避難地域の病院としての役割	精神看護(大阪)
舞子浜病院	
3.11 その時私たちは	精神看護(大阪)
福島県会津保健福祉事務所	
ふくしまの絆 保健活動から	在宅看護(愛知) 精神看護(大阪) ヘルスプロモーション(富山)
福島県立医科大学 会津医療センター附属病院	
訪問看護から急性期病院での在宅療養支援に取り組んで ～被災地における在宅看護専門看護師の役割～	在宅看護(愛知)
福島赤十字病院	
震災からの母子の支援と活動報告	ヘルスプロモーション(富山)
放射線内被ばく、甲状腺検査の当院での取り組み報告	
養生会 かしま病院	
「東日本大震災を経験して今、伝えたい事」 ～震災当時の状況と現在の状況 今後の課題～	慢性期看護(福島)

○来場者数

・来場者数(述べ数): 合計約2,300名

内訳 慢性期看護: 約600名、精神看護: 約200名、在宅看護: 約600名、

ヘルスプロモーション: 約900名

○展示の様子

■慢性期看護（福島県、ビッグパレット）



■精神看護（大阪府、グランキューブ）



■在宅看護（愛知、名古屋国際会議場）



■ヘルスプロモーション（富山、県民会館）



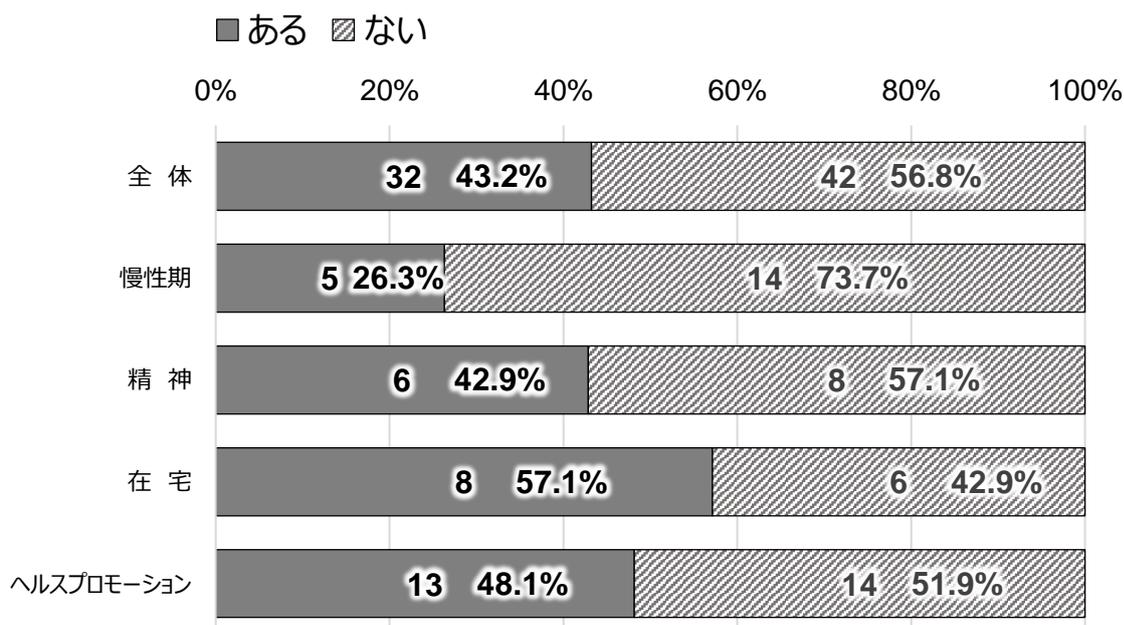
10) アンケート結果

参加支援事業の参加者に対し、学術集会終了時にアンケートを実施した。74名の参加者から回答が得られた。

東日本大震災復興支援事業 日本看護学会への参加支援 アンケート《集計結果》

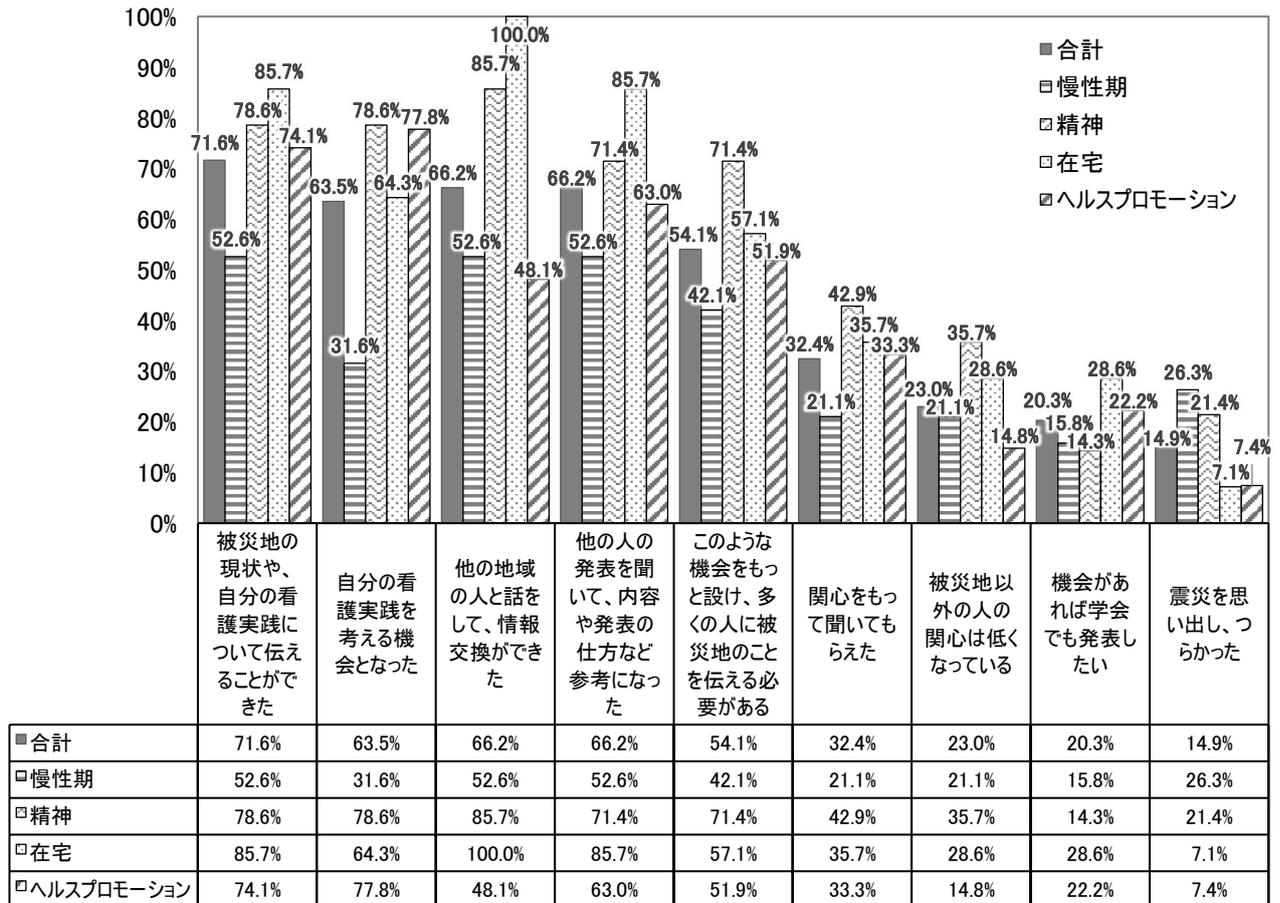
■ 回答率: 100% 74名(回答者) / 74名(参加者)

Q 1_これまで日本看護学会—学術集会に参加したことはありますか?



	ある		ない		参加者合計
	数	割合	数	割合	
慢性期(福島)	5	26.3%	14	73.7%	19
精神(大阪)	6	42.9%	8	57.1%	14
在宅(愛知)	8	57.1%	6	42.9%	14
ヘルスプロモーション(富山)	13	48.1%	14	51.9%	27
合計	32	43.2%	42	56.8%	74

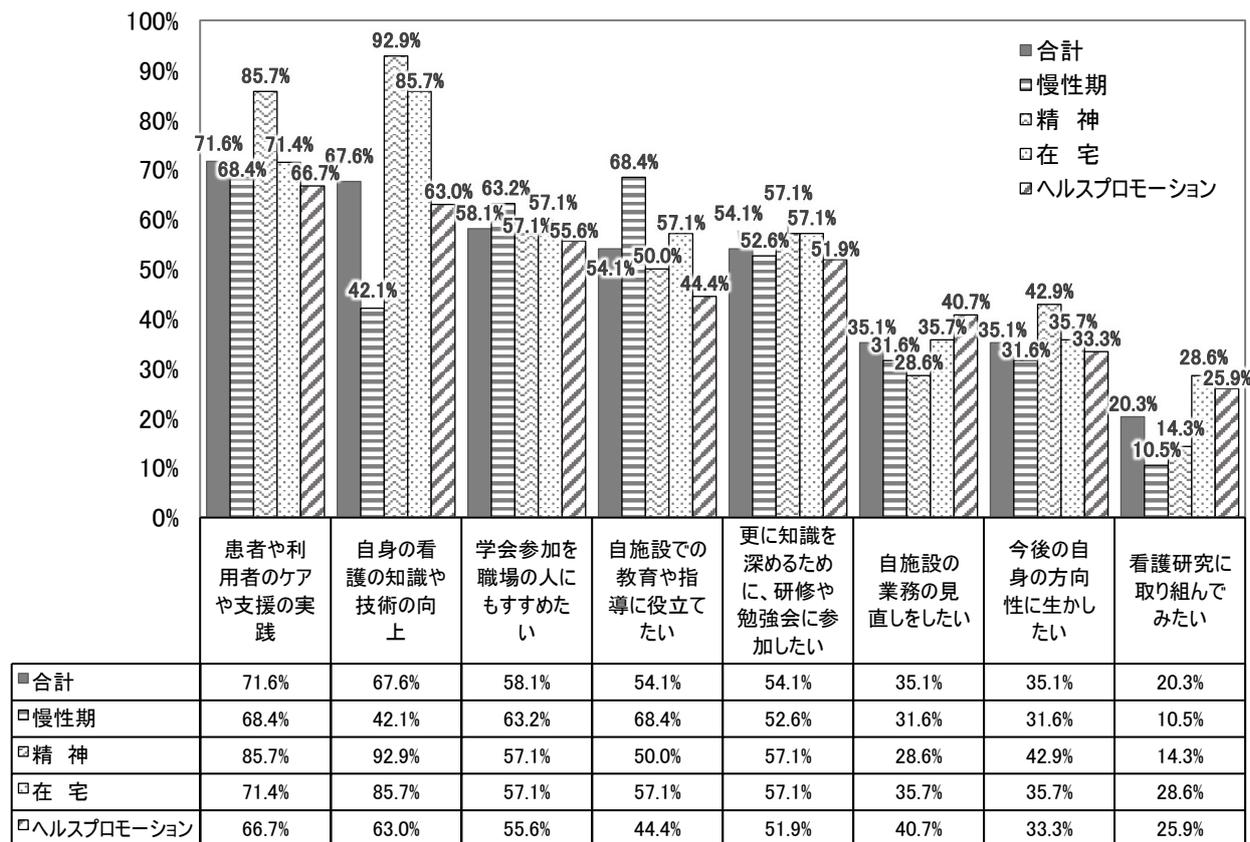
Q2 東日本復興支援ブースでの発表について



慢性期看護(19)	10	6	10	10	8	4	4	3	5
精神看護(14)	11	11	12	10	10	6	5	2	3
在宅看護(14)	12	9	14	12	8	5	4	4	1
ヘルスプロモーション(27)	20	21	13	17	14	9	4	6	2
合計	53	47	49	49	40	24	17	15	11

- 被災当初からの5年間、混乱した状況から現在を立ち上げているのか、もっと現状の今、抱えている課題や今後の展望などの方向に内容を持っていく時期だと思います。
(慢性期看護/福島)
- 皆頑張っている事で自分も頑張っていこうと思った。たくさんの支援を受け、感謝の気持ちを伝える事が出来た。本当にありがとうございました。(在宅看護/愛知)
- ブースだと発表者と参加者(聴衆)が一体となる感じがあり楽しく改めて勉強することができました。(在宅看護/愛知)
- 発表の準備をとおして、これまでの自分の保健活動をふりかえり、整理することができた。参加してとてもよかったですと思いました。また、このような機会を設け、他地域の方が被災地に目を向けてくださることが自分にとって大きな励みになりました。
(ヘルスプロモーション/富山)
- 1施設1テーマだったので自分の取り組みを発表できず、少し残念でした。
(ヘルスプロモーション/富山)

Q3 学術集会で得られた知識を。今後どのように生かしていきたいですか？

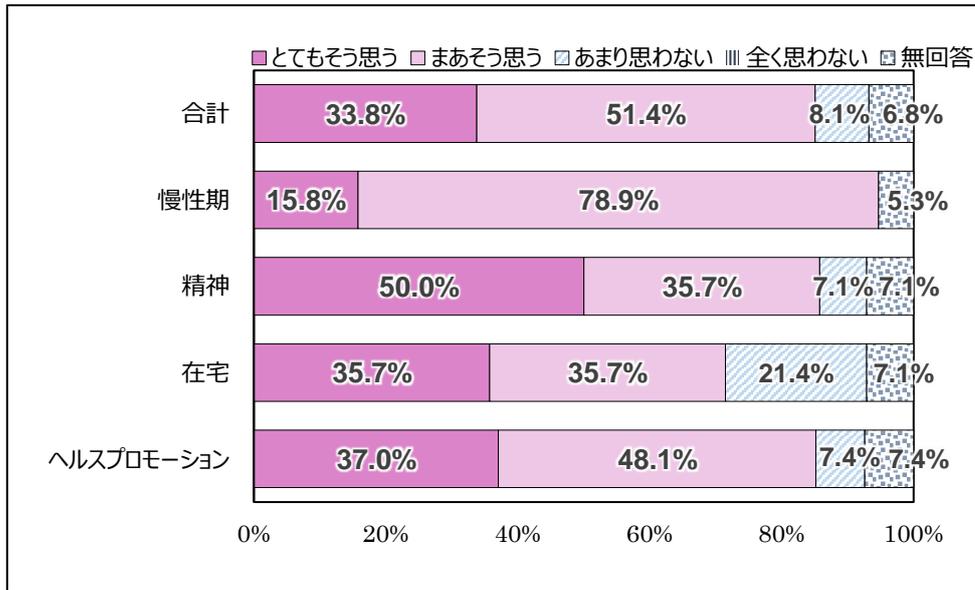


慢性期看護(19)	13	8	12	13	10	6	6	2
精神看護(14)	12	13	8	7	8	4	6	2
在宅看護(14)	10	12	8	8	8	5	5	4
ヘルスプロモーション(27)	18	17	15	12	14	11	9	7
合計	53	50	43	40	40	26	26	15

- ・精神(こころ)の看護がどの分野でも重要だということ関係しているということが教育講演、又、一般演題からもあらためて解った。(精神看護/大阪)
- ・教育講演・特別講演がとてもよかった。今後のケアの中に活かしていけると思った。今後の精神看護学術集会に参加してみたい。(精神看護/大阪)
- ・学びが多い、負けそうな自分をもう一度ふるい立たせてもらった。(在宅看護/愛知)
- ・若い方々が発表のチャンスを得られるよう話し合いをしていきたい。
(ヘルスプロモーション/富山)

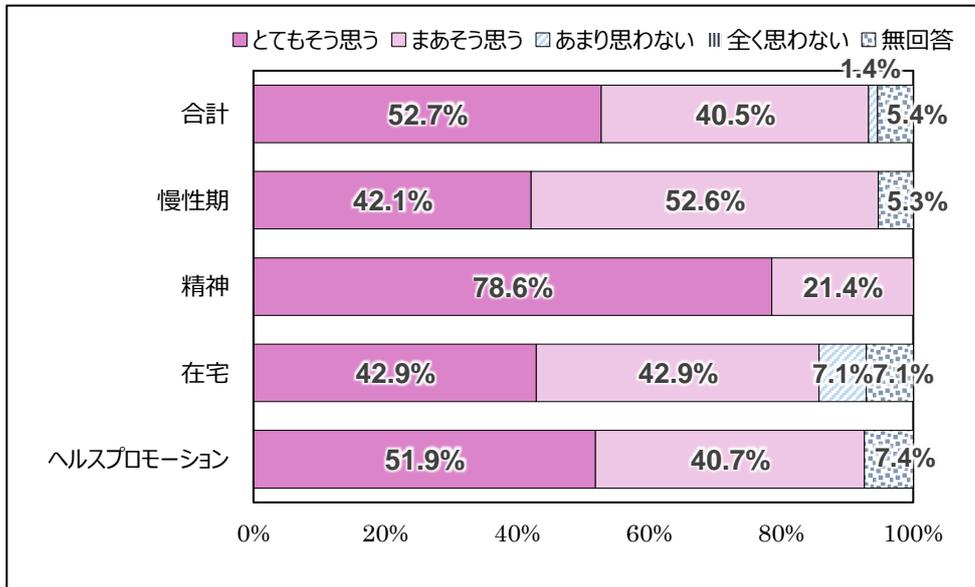
Q 4 学術集会に参加してどのように感じましたか？

■ 4-1 最新の情報が得られた



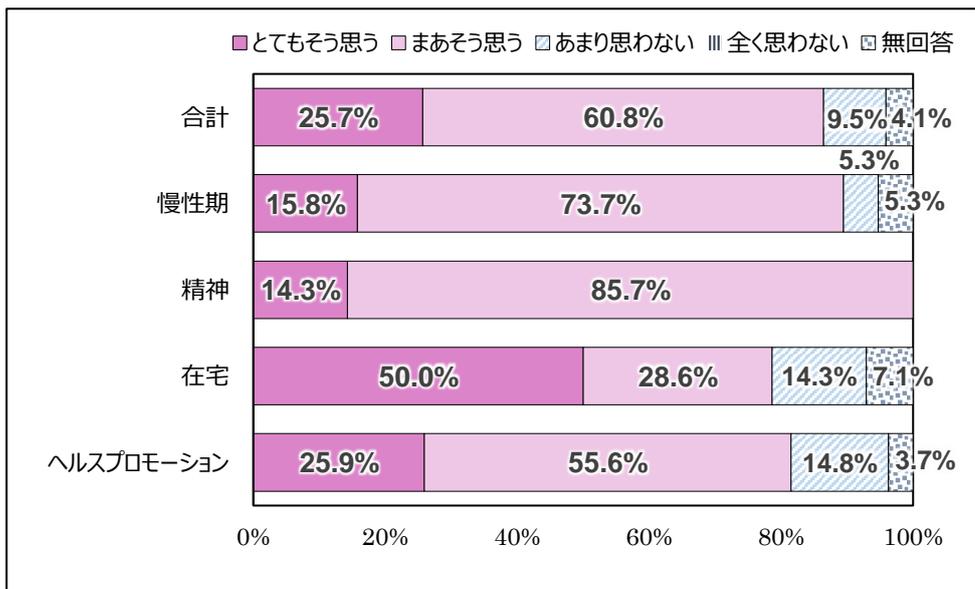
参加領域	とてもそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答					
慢性期(19)	3	15.8%	15	78.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%
精神(14)	7	50.0%	5	35.7%	1	7.1%	0	0.0%	1	7.1%
在宅(14)	5	35.7%	5	35.7%	3	21.4%	0	0.0%	1	7.1%
ヘルスプロモーション(27)	10	37.0%	13	48.1%	2	7.4%	0	0.0%	2	7.4%
合計	25	33.8%	38	51.4%	6	8.1%	0	0.0%	5	6.8%

■ 4-2 興味ある内容を聞くことができた



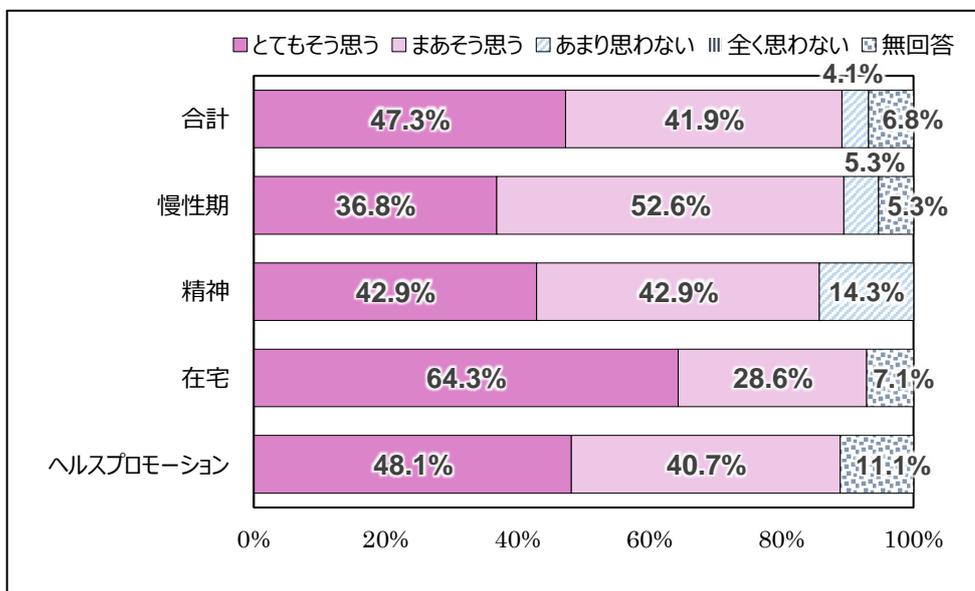
参加領域	とてもそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答					
慢性期(19)	8	42.1%	10	52.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%
精神(14)	11	78.6%	3	21.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
在宅(14)	6	42.9%	6	42.9%	1	7.1%	0	0.0%	1	7.1%
ヘルスプロモーション(27)	14	51.9%	11	40.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	7.4%
合計	39	52.7%	30	40.5%	1	1.4%	0	0.0%	4	5.4%

■ 4-3 スキルアップにつながった



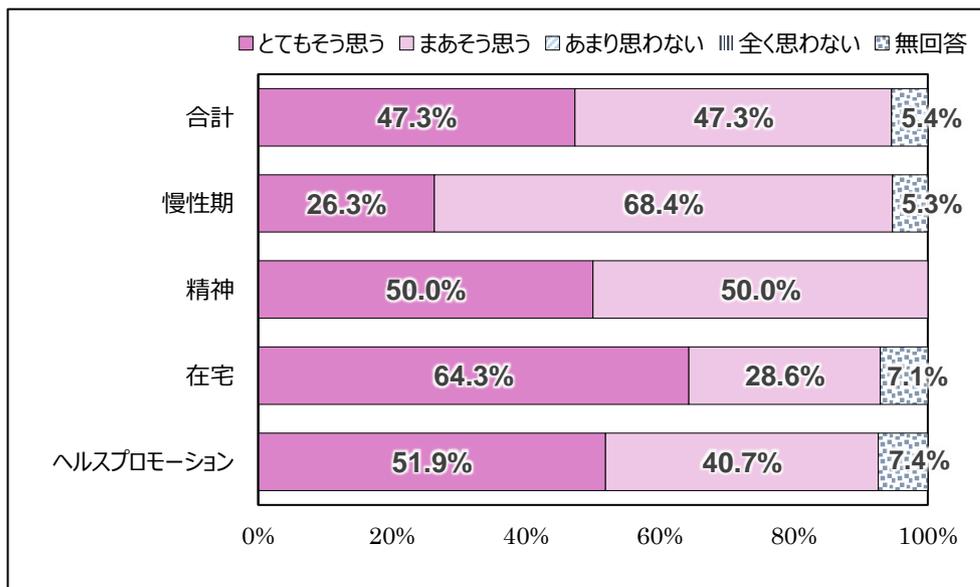
参加領域	とてもそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	
慢性期(19)	3	15.8%	14	73.7%	1	5.3%
精神(14)	2	14.3%	12	85.7%	0	0.0%
在宅(14)	7	50.0%	4	28.6%	2	14.3%
ヘルスプロモーション(27)	7	25.9%	15	55.6%	4	14.8%
合計	19	25.7%	45	60.8%	7	9.5%

■ 4-4 日頃の自分の活動を振り返ることができた



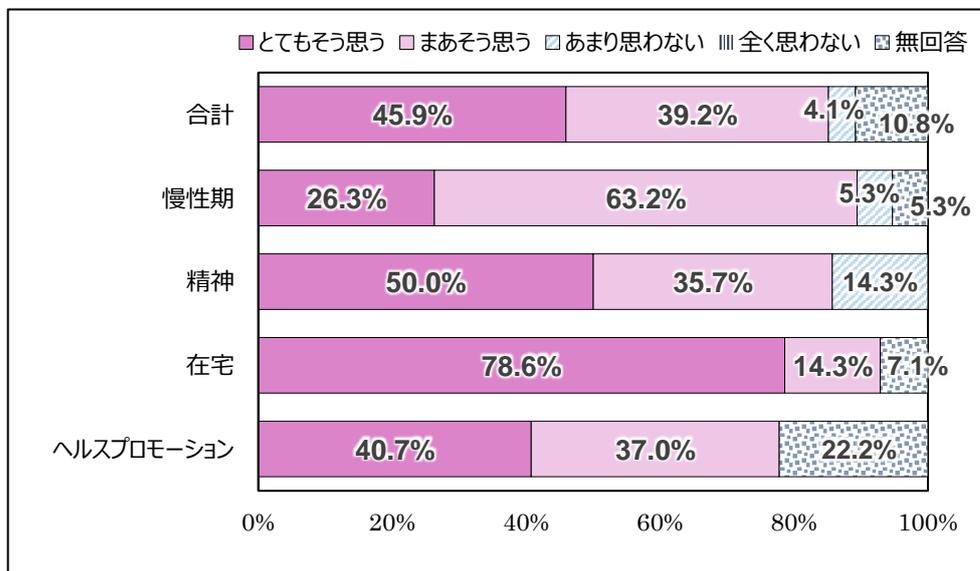
参加領域	とてもそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	
慢性期(19)	7	36.8%	10	52.6%	1	5.3%
精神(14)	6	42.9%	6	42.9%	2	14.3%
在宅(14)	9	64.3%	4	28.6%	0	0.0%
ヘルスプロモーション(27)	13	48.1%	11	40.7%	3	11.1%
合計	35	47.3%	31	41.9%	3	4.1%

■ 4-5 活動の視野が広がった



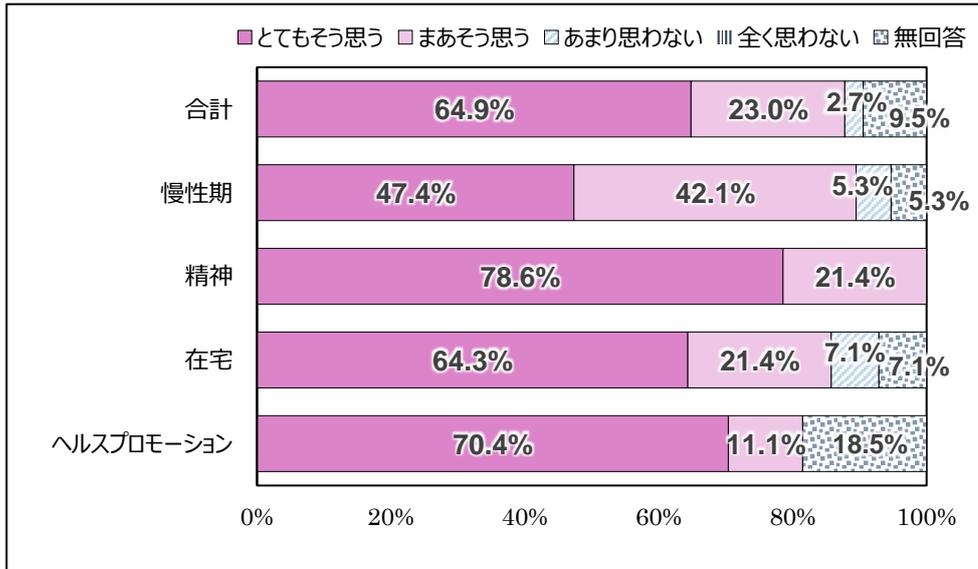
参加領域	とてもそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答
慢性期(19)	5	26.3%	13	68.4%	0
精神(14)	7	50.0%	7	50.0%	0
在宅(14)	9	64.3%	4	28.6%	0
ヘルスプロモーション(27)	14	51.9%	11	40.7%	0
合計	35	47.3%	35	47.3%	0

■ 4-6 施設以外の人と話ができて、情報が得られた



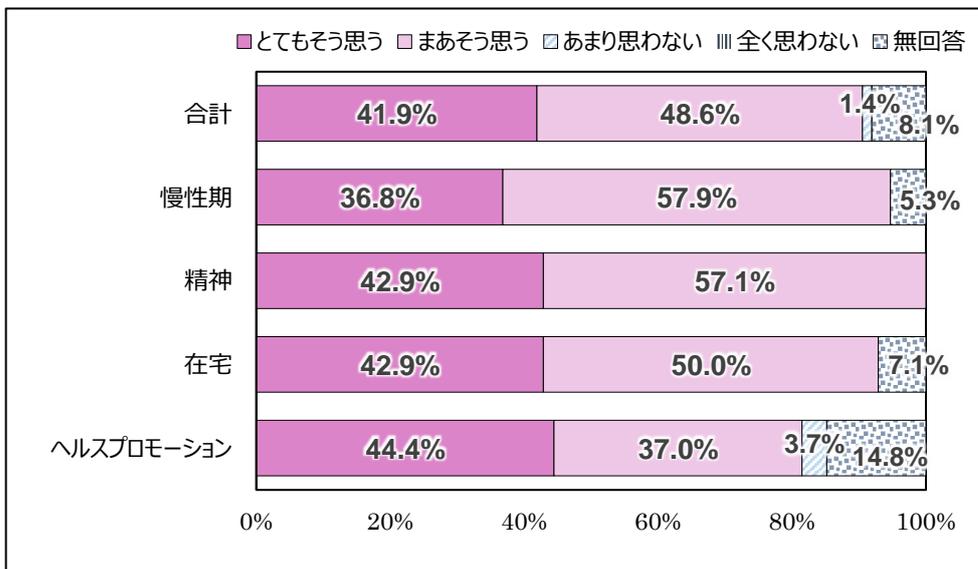
参加領域	とてもそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答
慢性期(19)	5	26.3%	12	63.2%	1
精神(14)	7	50.0%	5	35.7%	2
在宅(14)	11	78.6%	2	14.3%	0
ヘルスプロモーション(27)	11	40.7%	10	37.0%	0
合計	34	45.9%	29	39.2%	3

■ 4-7 違う土地に来て、気分転換になった



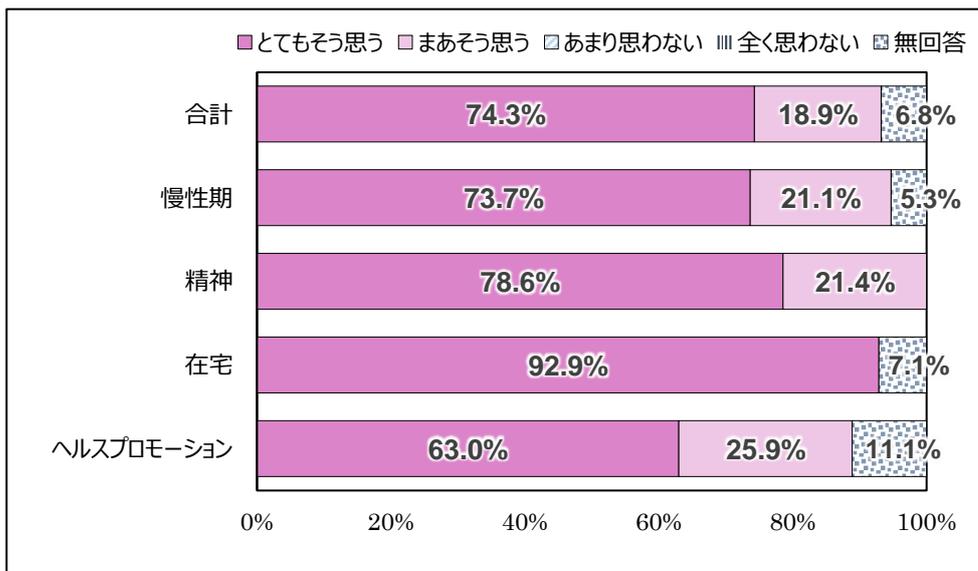
参加領域	とてもそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	
慢性期(19)	9	47.4%	8	42.1%	1	5.3%
精神(14)	11	78.6%	3	21.4%	0	0.0%
在宅(14)	9	64.3%	3	21.4%	1	7.1%
ヘルスポモーション(27)	19	70.4%	3	11.1%	0	0.0%
合計	48	64.9%	17	23.0%	2	2.7%

■ 4-8 仕事に対して意欲がわいた



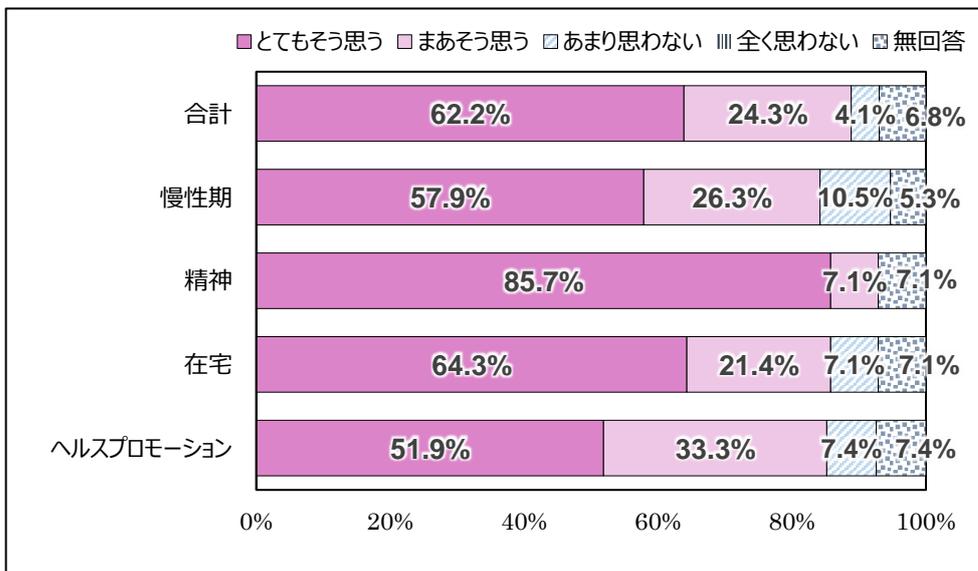
参加領域	とてもそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	
慢性期(19)	7	36.8%	11	57.9%	0	0.0%
精神(14)	6	42.9%	8	57.1%	0	0.0%
在宅(14)	6	42.9%	7	50.0%	0	0.0%
ヘルスポモーション(27)	12	44.4%	10	37.0%	1	3.7%
合計	31	41.9%	36	48.6%	1	1.4%

■ 4-9 看護職として学び続けることが必要だ



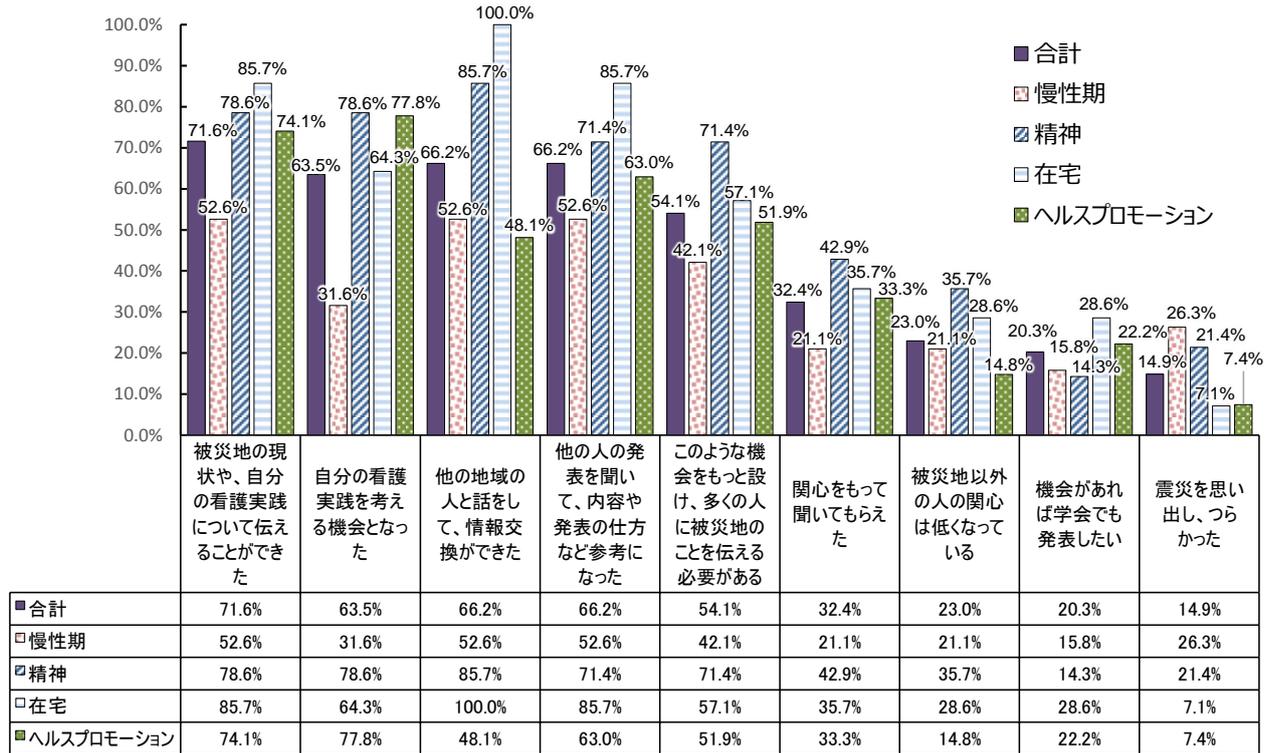
参加領域	とてもそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答					
慢性期(19)	14	73.7%	4	21.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%
精神(14)	11	78.6%	3	21.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
在宅(14)	13	92.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%
ヘルスプロモーション(27)	17	63.0%	7	25.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	11.1%
合計	55	74.3%	14	18.9%	0	0.0%	0	0.0%	5	6.8%

■ 4-10 今後も学術集会への参加支援をしてほしい



参加領域	とてもそう思う	まあそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答					
慢性期(19)	11	57.9%	5	26.3%	2	10.5%	0	0.0%	1	5.3%
精神(14)	12	85.7%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%
在宅(14)	9	64.3%	3	21.4%	1	7.1%	0	0.0%	1	7.1%
ヘルスプロモーション(27)	14	51.9%	9	33.3%	2	7.4%	0	0.0%	2	7.4%
合計	46	62.2%	18	24.3%	3	4.1%	0	0.0%	5	6.8%

Q5 懇親会に参加して、どのように感じましたか？

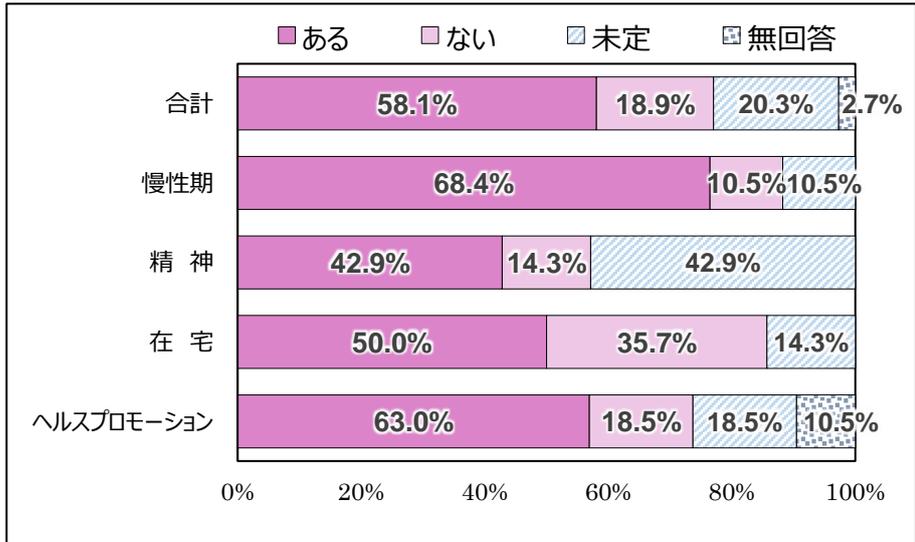


慢性期看護(19)	8	4	5	7	4	11	2	2
精神看護(14)	11	8	6	9	9	5	0	0
在宅看護(14)	11	12	8	10	7	7	1	1
ヘルスプロモーション(27)	17	20	13	10	10	9	4	2
合計	47	44	32	36	30	32	7	5

〔その他〕

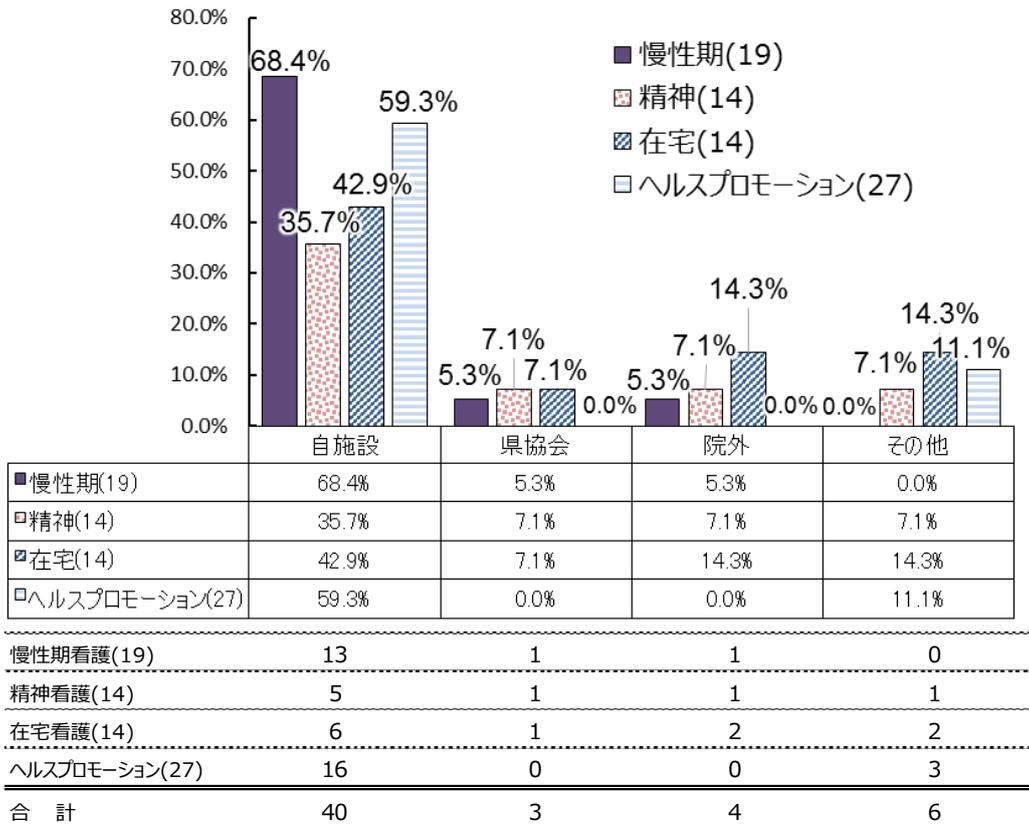
- ・ 地元に戻り、他のステーションの人達と交流をもつよう計画していきたい。
(在宅看護/愛知)
- ・ 伝える大切さをいつまでも甘えてよいのかと両方の思いがあります。
(ヘルスプロモーション/富山)

Q6 今回の学術集会参加について、後日、自施設等で報告や伝達する機会がありますか？



参加領域	ある	ない	未定	無回答
慢性期(19)	13	2	2	2
精神(14)	6	2	6	0
在宅(14)	7	5	2	0
ヘルスプロモーション(27)	17	5	5	0
合計	43	14	15	2

■あると答えた方は、どのような場所ですか？

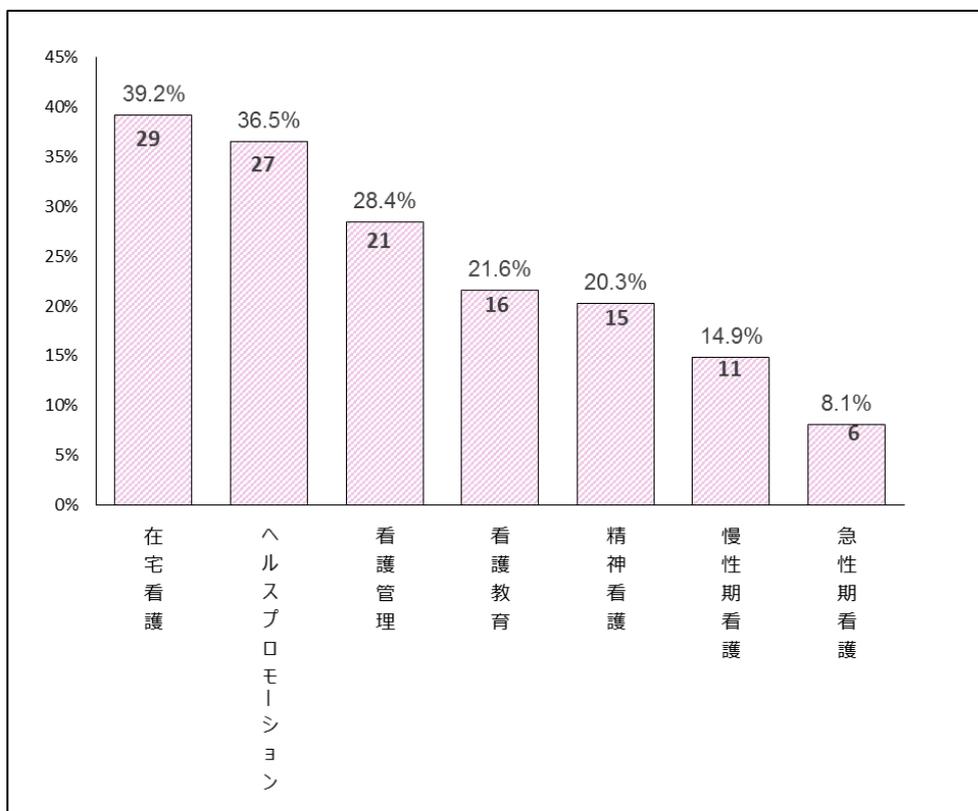


[その他]

- ・管内看護管理者の会(精神看護/大阪)
- ・岩手県訪問看護ステーション協議会の研修があるので伝えていきたい。(在宅看護/愛知)

- ・ 報告書、局内回覧(在宅看護/愛知)
- ・ 市町等との定例ミーティング(ヘルスプロモーション/富山)
- ・ 健康相談従事者の仲間(ヘルスプロモーション/富山)
- ・ 受託事業を行っている町スタッフ会議で伝達予定。知人。(ヘルスプロモーション/富山)

Q 7 今後参加支援をしてほしい学会の領域



Q 8 今後、日本看護協会や復興支援事業に期待することがありましたらご記入ください。

- ・ 災害看護の考え方。取り残された地域での看護支援のあり方をぜひ考えてほしいと思います。被災3県の交流会は続けてお願いします。頑張っている方々の思いを伝えあえる機会が更なる復興につながると思います。(慢性期看護/福島)
- ・ 「今さら震災?」「いつまで震災?」という雰囲気も被災地にはあります。復興していることや、震災を乗り越えて前を向き歩んでいる中で、逆行したくないという気持ちや風化させたいという思いもあると思います。忘れてしまいたいのです。しかし、戦争の痛みを引き継ぐのと同様に災害時の経験を語り継ぐことが、後世の人達の生きるヒントとなってくれればと思っています。なので、このような機会を設けて頂いてありがたく思いました。(慢性期看護/福島)
- ・ 震災のことは忘れないでほしいが、自立していかなければならないので自費参加でよいのではないか。(慢性期看護/福島)
- ・ 今回参加させて頂いたことに改めて感謝いたします。看護職員が減るなか地域の過疎化も進み、高齢者が増加する一方、ケアを充実しても急性期病院や7:1病院の看護加算が認められることは多いのですが、なかなか療養病棟や10:1一般病棟では臨床看護の実践が加算につながり励みや達成につながらない様に感じるが多くなります。看護必要度B項目での評価=看護の喜び達成感が得られる今後の改良に強く期待したいです。高齢者が増える現状B項目の内容は評価、加算に期待したいです。(慢性期看護/福島)

- ・もう震災後 4 年が経過しているが、被災地の看護師がどんなふう to 活躍しているのか風化させないためにもこの事業を続けてほしい。(精神看護/大阪)
- ・災害時の対応について、後世に伝えていく事は必要と思っています。今後もこの支援事業は継続していただけるとありがたいです。(開催場所によって聞きにくる方の多い少ないはあると思いますが…)懇親会では他機関の活動を聞いて勉強になりました。もう少し時間があればなおよかったです。(精神看護/大阪)"
- ・これまでも東日本大震災復興支援事業での学会参加支援は知っていましたが、具体的な事知らず「支援」を受けての参加を考えた事はありませんでした。すばらしい取り組みだと思えます。震災を風化させないためにも、これからも情報発信し続けなければならないと感じました。ありがとうございました。(在宅看護/愛知)
- ・同じ県内でも被災した市町村と被害の少なかった市町村では災害に対する考え方が全く違うと思う。一緒に考え検討していく必要があると思う。今まだ避難生活が続いていることを忘れないでほしい。支援がまだまだ必要と思っています。(在宅看護/愛知)
- ・伝えられる機会を作ってほしい。伝えたいと思っている人はたくさんいます。4 年半もたって、伝える機会がどんどん少なくなってきています。いざという時に後悔しないために伝えたいですね。伝える方も年をとり忘れてしまいます。(在宅看護/愛知)
- ・「震災や被災地のことが風化していく」せつなさを感じるが増えてきて、今後もますます増えていくのではないかと案じています。ぜひ被災地からの発信が続けられるような、バックアップ支援をよろしくお願いします。(ヘルスプロモーション/富山)
- ・実際の看護支援の提供について、多くの話を聞くことができよかったですと思います。支援に携わる医療者のフォローアップに関する支援事業についても発展して頂けることを期待しています。ありがとうございました。(ヘルスプロモーション/富山)
- ・このような支援をしていただき、本当に感謝しております。まだまだ業務に追われ余裕が少ない状況で学会等に自ら申し込み参加するという状況にないのが実状です。今回、このような機会をいただき、被災地を離れることで、とっもリフレッシュできました。ご配慮いただきありがとうございました。忘れないでくださることを嬉しく思います。今後とも応援、発表の機会をいただけたらと思います。(ヘルスプロモーション/富山)
- ・現状の情報を提供しつづける機会をつくってほしい。(ヘルスプロモーション/富山)

11) まとめ

- ・事業参加者は今年度 74 名と過去最も多い人数となり、平成 25 年度からの通算で 180 名となった。被災地看護職の学会参加への高いニーズや、事業継続への要望が聞かれ、継続的な支援が望まれていることがわかった。
- ・事業参加者より、「一般演題、教育公演、特別講演の内容がとてもよく、今後のケアに活かしていける」「リフレッシュするとともに視野が広がり仕事にやりがいを持つことができた」という意見が寄せられ、教育的な支援および就業継続への意欲の向上につながった。
- ・事業参加者同士の交流や情報交換も図れていた。
- ・本事業に参加した被災地の看護職から、「発表はこれまでの 5 年間、混乱した状況から立ち上げてきた現状、課題に加え、今後の展望に向けた内容とする時期」「震災の経験を語り継ぐことが、後世の人達の生きるヒントとなる、伝えていくこと伝えられる機会があることが重要」という声が寄せられ、自らの経験や体験を伝え、未来につなげていきたいという思いがうかがえた。
- ・ブース会場や懇親会には例年以上の来場者が参集し関心の高さがうかがえた。

- ・全国の看護職に向け、被災地での看護活動の成果や現状を発信する機会を作ることへの要望が非常に多く、岩手県、宮城県、福島県の看護協会と協働しつつ、本事業のあり方と支援内容の検討を継続していく必要がある。

2.日本看護学会－ヘルスプロモーション－学術集会における 交流集会「災害支援とまちづくり」の開催



1) 概要

第 46 回日本看護学会－ヘルスプロモーション－学術集会において、東日本大震災復興支援事業の一環として交流集会「災害支援とまちづくり」を開催した。東日本大震災被災地看護職の活動や、大規模災害被災地保健師による地域の活動について実践発表を行い、参加者との意見交換の場とした。

2) 目的

地域の実情を理解し、復興・復旧に向け、中長期的に継続して人々を支援し、まちづくりも視野に健康で安心な暮らしを再構築する看護活動のあり方を、ヘルスプロモーションの視点から考える。

3) 開催場所と日時

- (1) 開催場所：富山県民会館 304 号室（第 4 会場）
富山県富山市新総曲 4-18
- (2) 開催日時：2015 年 11 月 6 日(金)13:30～14:50

4) テーマと実施内容

- (1) テーマ：「災害支援とまちづくり」
- (2) 実施内容：座長 公益社団法人 日本看護協会 常任理事 中板 育美

相双保健福祉事務所 いわき出張所 菊地 とも子 氏	東日本大震災被災地の保健師による実践報告
南三陸訪問看護ステーション 所長 千葉 美由紀 氏	東日本大震災被災地の訪問看護師による 実践報告
長野県松本保健福祉事務所 健康づくり支援課 課長補佐兼保健衛生第一係長 傳田 純子 氏	都道府県保健師による大規模災害における 被災者及び家族支援報告
広島市南区厚生部健康長寿課 健康長寿課長 松田 尚美 氏	市区町村保健師による大規模災害における 被災者及び家族支援報告

東日本大震災をはじめ、長野県の御嶽山噴火災害、広島県の豪雨土砂災害の被災地で活動する看護職 4 名より、地域の実情を理解し、復旧・復興に向け、中長期的に継続して人々を支援し、健康で安心な暮らしを再構築する看護活動について、これまでの実践をご報告いただいた。200 名規模の会場に 130 名ほどの参加者が集まり、皆熱心に話を聞いている姿が見られた。一般参加者からは、「いつどこで起こるか分からない災害にどう備えるのかを具体的に知ることができてよかった。」「地位や災害によって抱えている課題の違いや複雑さがあるということ実感した。」「今後も継続して取り組みを共有できる場を持っていただきたい」という声があった。

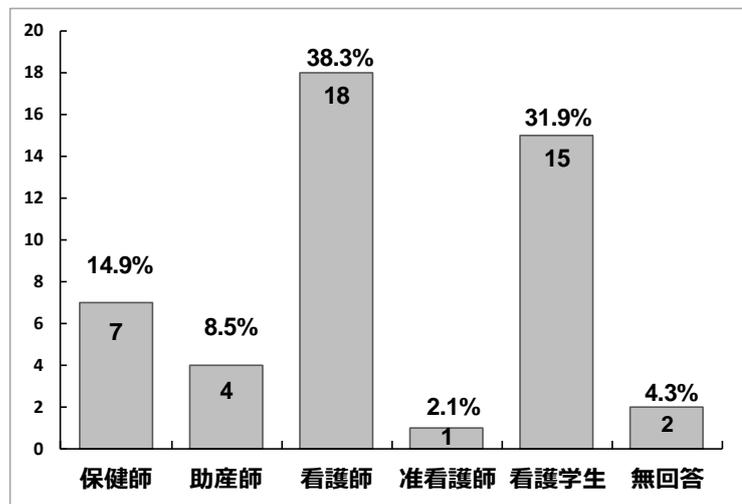
5) アンケート結果

参加者：124名 アンケート回収：47枚(37.9%)

●あなた自身についてお聞かせ下さい。

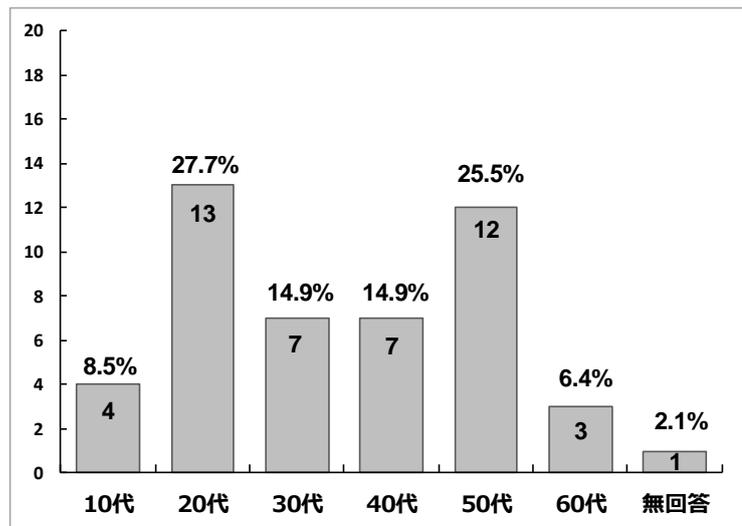
■ 職種

職種	人数	%
保健師	7	14.9%
助産師	4	8.5%
看護師	18	38.3%
准看護師	1	2.1%
看護学生	15	31.9%
無回答	2	4.3%
計	47	100.0%



■ 年齢

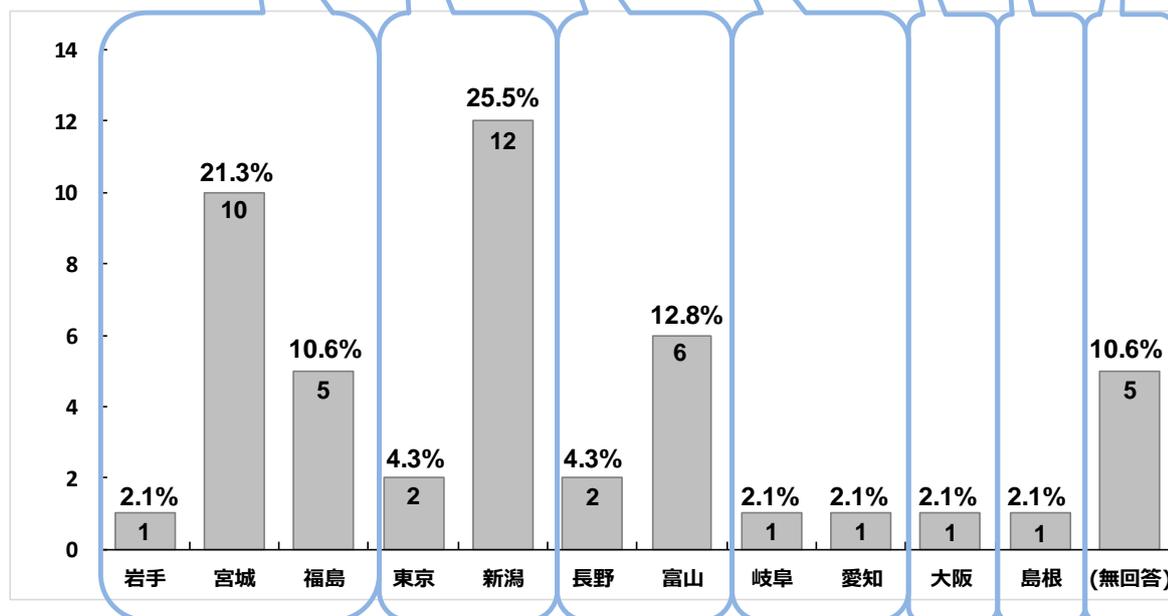
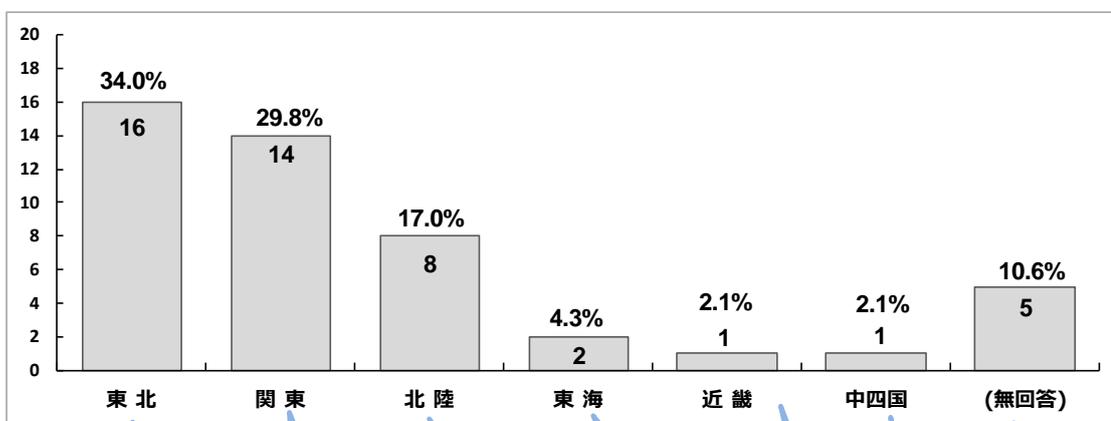
年齢	人数	%
10代	4	8.5%
20代	13	27.7%
30代	7	14.9%
40代	7	14.9%
50代	12	25.5%
60代	3	6.4%
無回答	1	2.1%
計	47	100.0%



■ 現在勤務している所属先の都道府県

都道府県	人数	%
東北(16)	岩手 1	2.1%
	宮城 10	21.3%
	福島 5	10.6%
関東(14)	東京 2	4.3%
	新潟 12	25.5%
北陸(8)	長野 2	4.3%
	富山 6	12.8%
東海(2)	岐阜 1	2.1%
	愛知 1	2.1%
近畿(1)	大阪 1	2.1%
中四国(1)	島根 1	2.1%
(無回答)	5	10.6%
総計	47	100.0%

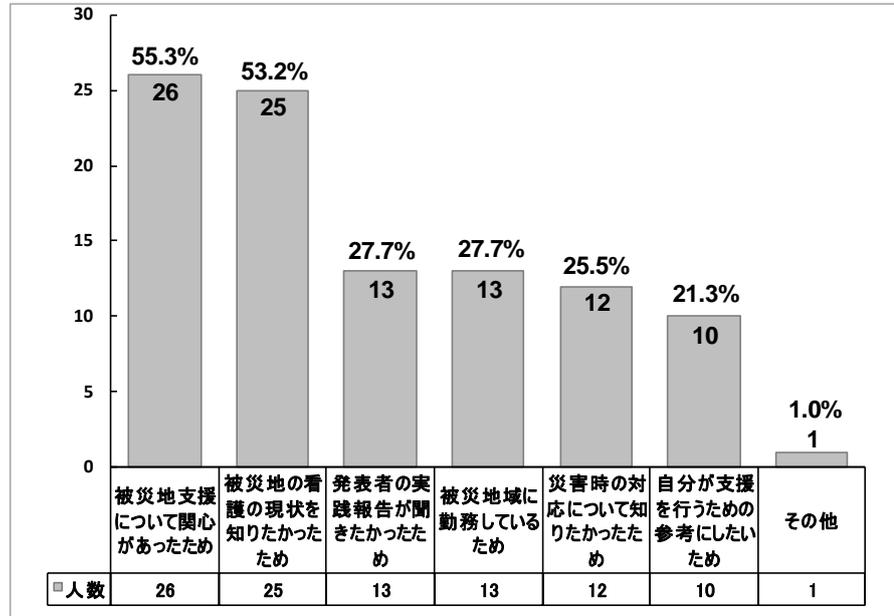
地域別	人数計	%
東北	16	34.0%
関東	14	29.8%
北陸	8	17.0%
東海	2	4.3%
近畿	1	2.1%
中四国	1	2.1%
(無回答)	5	10.6%
計	47	100.0%



1.本日交流会に参加した理由は何ですか。(複数回答可)

(母数:回答者数)

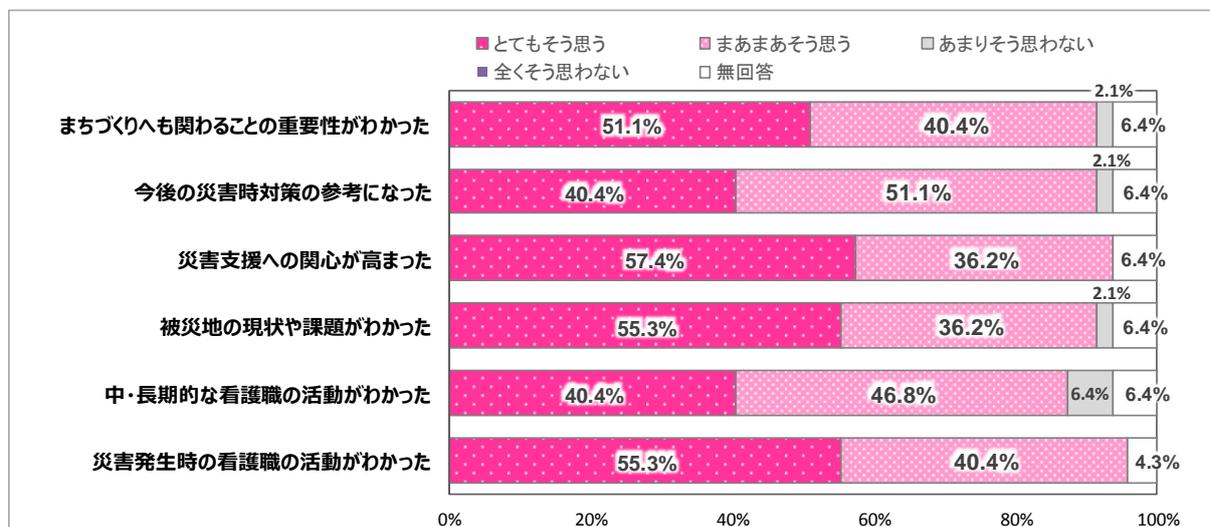
理由	人数	%
被災地支援について関心があったため	26	55.3%
被災地の看護の現状を知りたかったため	25	53.2%
発表者の実践報告が聞きたかったため	13	27.7%
被災地域に勤務しているため	13	27.7%
災害時の対応について知りたかったため	12	25.5%
自分が支援を行うための参考にしたいため	10	21.3%
その他	1	1.0%



2.交流会の内容はいかがでしたか?

(母数:回答者数)

	とてもそう思う	まあまあそう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	無回答	計
まちづくりへも関わることの重要性がわかった	24	19	1	0	3	47
今後の災害時対策の参考になった	19	24	1	0	3	47
災害支援への関心が高まった	27	17	0	0	3	47
被災地の現状や課題がわかった	26	17	1	0	3	47
中・長期的な看護職の活動がわかった	19	22	3	0	3	47
災害発生時の看護職の活動がわかった	26	19	0	0	2	47



〔感想〕

- ・災害というと近年では東日本大震災の印象が強かったが、本日の発表を聞き、東日本大震災後も様々な災害が発生し看護師がその支援に携わっているのを感じました。又、自分自身も発表にあったような大きな災害でなくても地震・火災などに対応しなくてはならない状況も出てくると思います。まずは自分が病院で災害発生した時にしっかり対応できる様にしたいと思いました。
- ・災害の特性により関与方法が変わるため、どの状況でもアセスメントの重要性を感じた。
- ・東日本大震災の時、長期避難所生活上で様々な健康上の問題や課題があった中、DVT 予防、肺炎予防・生活不活発予防のダンボールベッド使用が広島の記事にあり、経験が生かされているのを感じた。
- ・いつ被災するかわからない時世となっているので、災害時自分が何をすべきか、できるかを常にイメージしていくことが必要と感じる。そのうえで大変参考になった。
- ・今まで災害が起きたとき看護職が現場に向かっていることは知っていたが、具体的には何をしているのか分かりませんでした。しかし、今回の講演を聞いてどんなことをしているのか、また、現在も課題は多々あるということがわかりました。ありがとうございました。
- ・看護師としての災害現場での関わりを聞き災害支援に興味がわきました。
- ・被災地で行われる看護について知ることができました。看護に限界はないということを感じさせられました。
- ・今後も継続して取り組みを発表できる場をもち、情報共有し、災害時の対応の参考にしていきたいと思えます。次年度も開催して下さい。
- ・災害支援、復興にはシステムが大切であることがよくわかった。マスコミでは報道されない個々のまちづくりが(システムづくりが)今後も効果的に活用されることを願っています。
- ・災害支援への関心が高まった。貴重なお話を聞いてよかった。
- ・災害の形は色々でも命を守る立場として何をすべきか「もし」と言う事を考え普段から対応を考える必要があると思った。
- ・様々な災害対応を知ることができてよかった
- ・支援の実際や課題に対しての取り組み施策がわかってよかった。
- ・組織が連携して寄り添う姿勢で看護を提供することが大切だと改めて思いました。
- ・他地域での災害と看護活動について理解することができた。
- ・他人事でなく、いつ、何処で何が起こるかわからないけれど災害のあった地域の支援報告の実際を伝えて頂き、どう備えるかなど具体的に知ることができてよかった。
- ・直接ケアするだけでなく寄り添うことの大切さを実感しています。
- ・直接被災地で活動された方の話を聞くことができてよかったです。
- ・東日本震災以降の4年半に渡って、各地域では新たな様々な災害が生じ、各地域での貴重な活動に触れ、敬意を表すと共に私達も今後の地域活動の大きな励みとなりました。本当にありがとうございました。
- ・東日本大震災の復興支援に携わっていますが、地域や災害によって抱えている課題の違いや複雑さがあるということを実感しました。大変参考になりました。
- ・他の人々の取り組みを知ることができ感動しました。

[その他・ご意見など]

- 関連職種間の連携の大切さがよくわかった。
- 災害はいつどこで発生するか、誰もが遭遇する可能性がある。常に、自身の生命を守り、周囲の安全を考慮するため最前をつくすこと。時期に応じた対応がその地域で行われるように支援していくこと。被災地域が自立していけるよう（自助、互助、公助）、まずは日頃の災害に対応する知識を身につけ実践し続けること。

3.保健師の実践力強化に向けた 事例検討会定着化のための支援



1) 概要

福島県相双地域では、原発事故の避難指示による役場機能の移転や保健師分散配置の状況下であり、組織横断的な事例検討会による保健師の実践力強化が重要になる。保健活動を行う保健師らを支援する「実践力アップ事例検討会」を開催し、専門的実践力の向上および人材育成の基盤づくりを支援した。

2) 目的

- (1) 保健師の専門的実践力の強化
- (2) 自組織内での事例検討会開催の定着化による人材育成の基盤づくり

3) 支援対象

福島県相双地域の市町村保健師（相馬市、南相馬市）

4) 事業実施期間

平成 27 年 11 月～平成 28 年 1 月

5) 実施内容

(1) 実施場所

- ①相馬市：相馬市保健センター、2 回実施、計 4 事例検討（参加者数：24 名）
- ②南相馬市：原町保健センター、2 回実施、計 4 事例検討（参加者数：33 名）

(2) 事例検討会の開催

- ・市保健師が担当しているケース 8 例を検討
- ・事例検討会参加者全員で情報を整理、統合しアセスメントを言語化
- ・検討したケースの今後の支援の方向性と役割分担を明確化

(3) 事例検討会のファシリテータを現地保健師自らが担当

- ・事例検討会を通して、事例検討会に熟達した保健師(本会より派遣)のファシリテータスキルを学ぶとともに市保健師も体得する場を確保

6) 結果

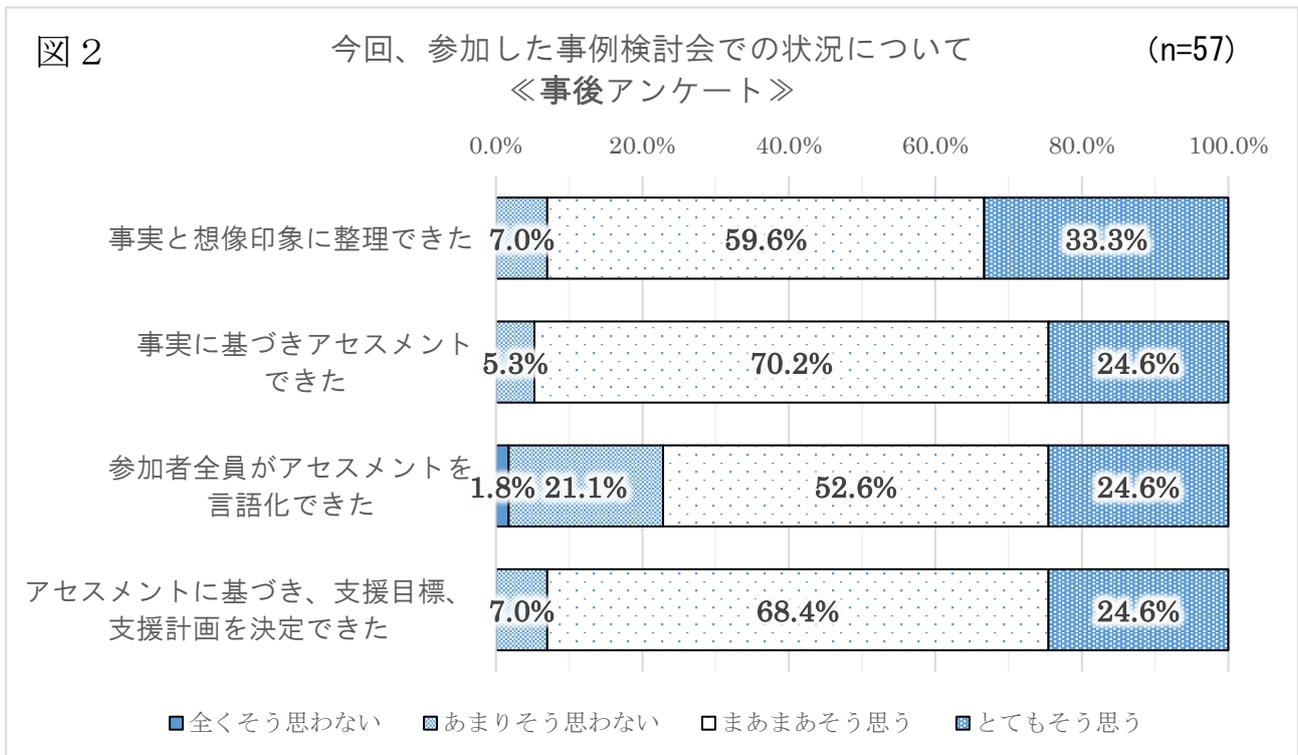
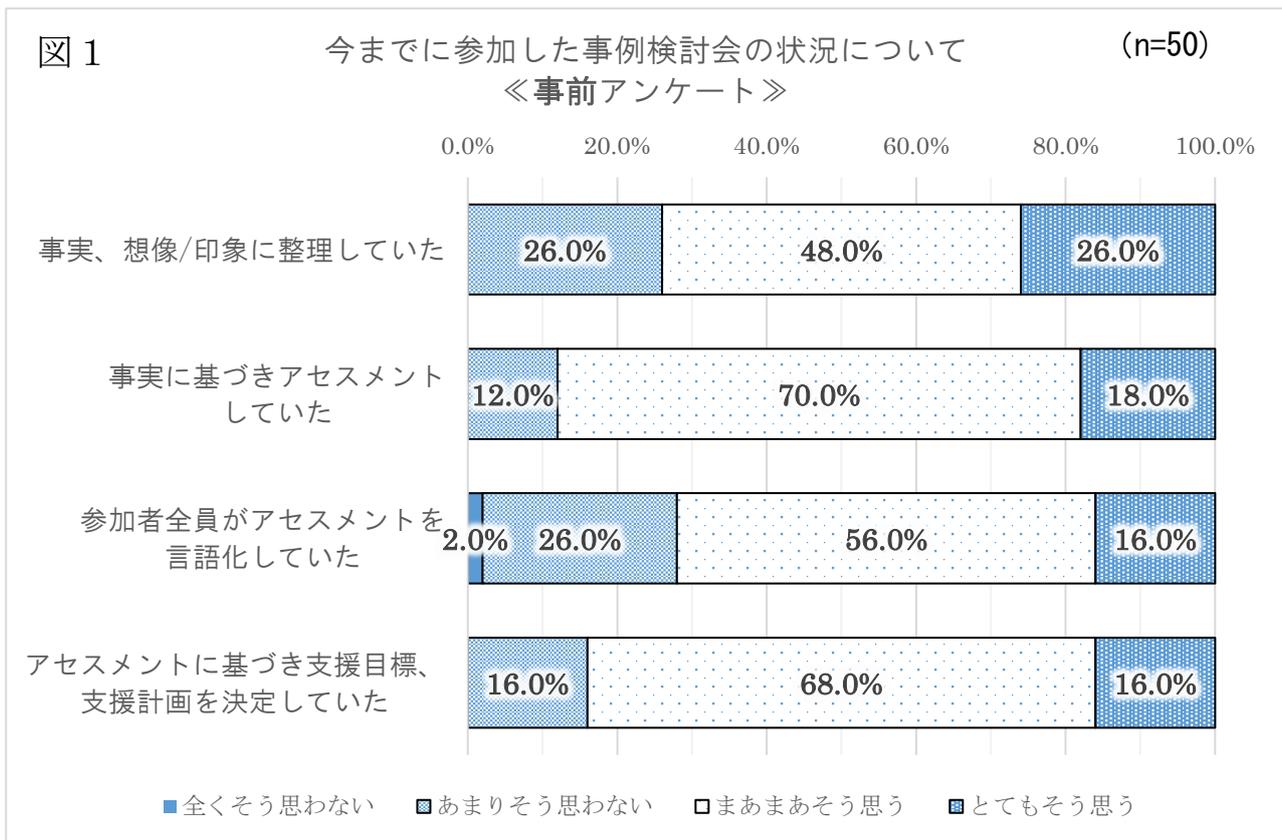
表-1 平成 27 年度 福島県における事例検討会支援 実施結果

実施箇所	会場	回数	実施日	参加者 (人)	市町村		福島 県等	支援者名	事務局 (人)
					保健師	他			
1 相馬市	相馬市保健 センター 会議室	2	12月4日(金) 10:30～15:30	9	8	0	1	角田 智哉(精神科医) 遠藤 厚子(保健師)	1
			1月27日(水) 10:30～15:30	15	7	0	8	佐野 信也(精神科医) 中板 育美(保健師)	1
2 南相馬 市	原町保健 センター 会議室	2	11月11日(水) 13:00～16:30	11	8	0	3	立花 正一(精神科医) 塚原 洋子(保健師)	1
			1月7日(木) 13:30～16:30	22	15	1	6	鷺山 拓男(精神科医) 遠藤 厚子(保健師)	1
合計		4			(延べ人数)				
				57	38	1	18	8	4

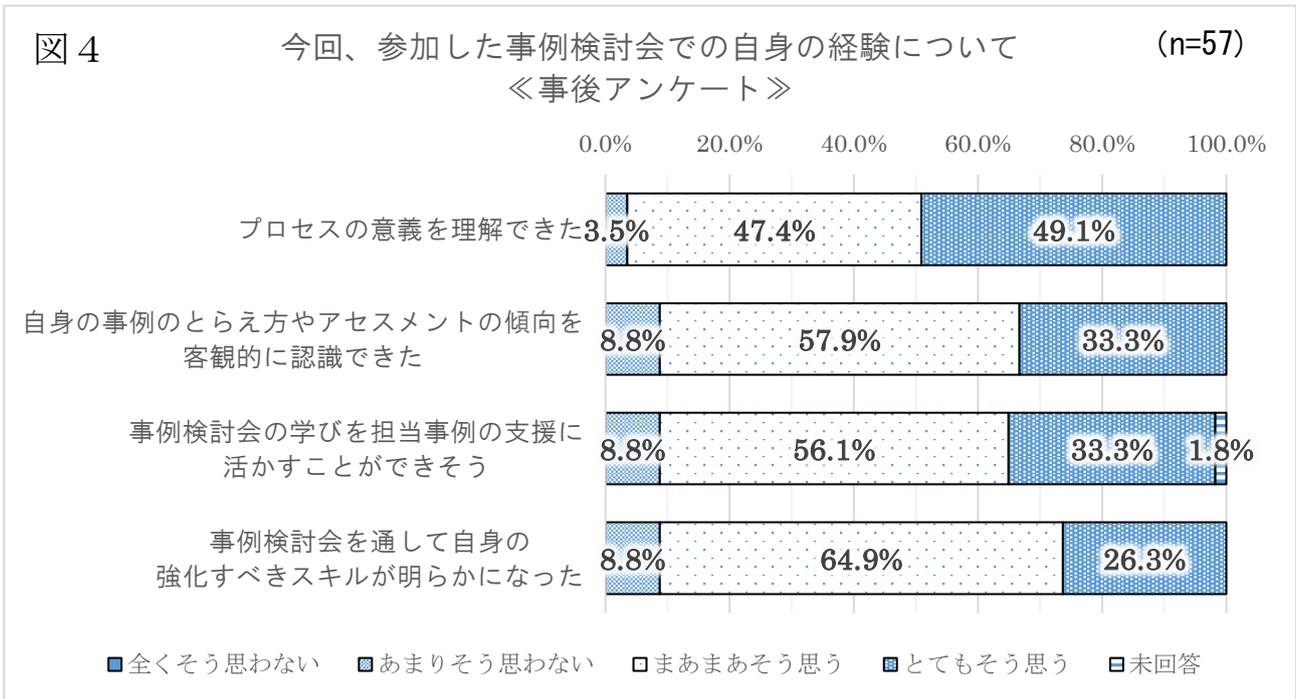
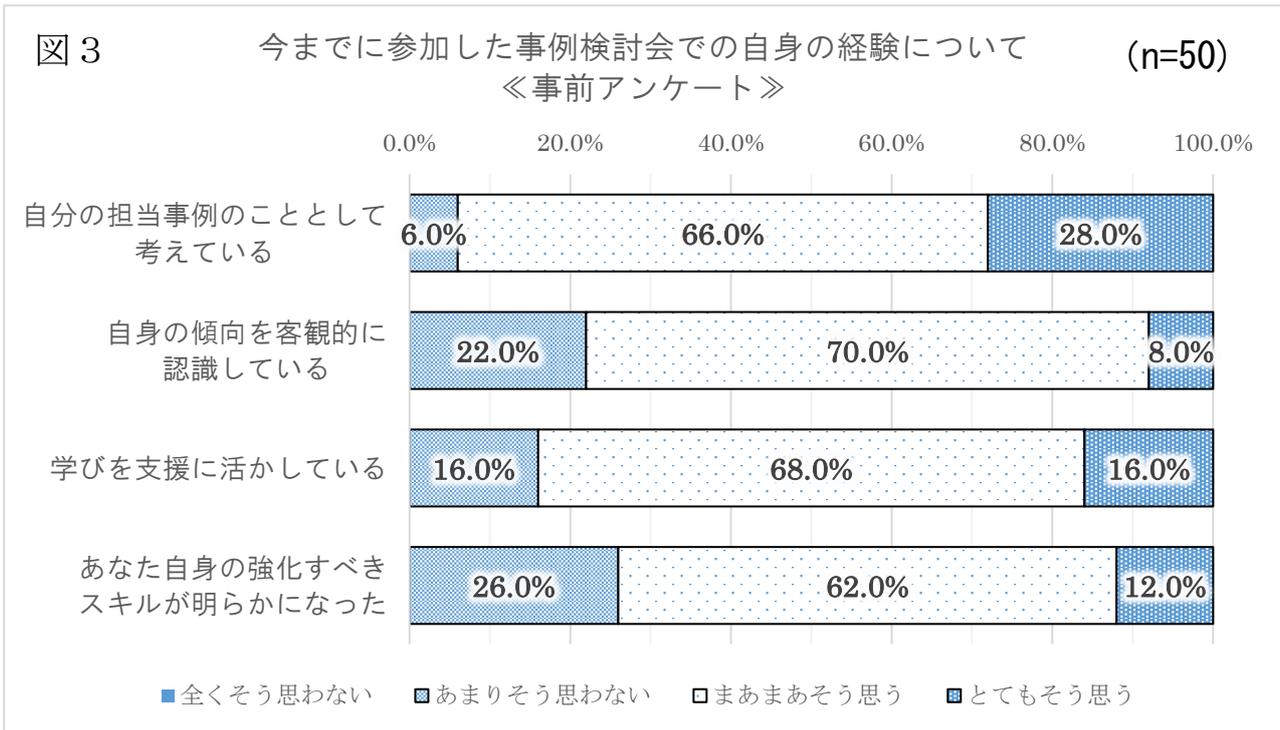
表-2 平成 27 年度 福島県における事例検討会支援 検討した事例数

	実施箇所	会場	検討した事例数	内訳
1	相馬市	相馬市保健センター 会議室	1 例	・発達の遅れから難病の診断を受けた幼児の支援(母子保健)
			1 例	・発達の遅れを心配しない無職の父親が養育する児への支援(就学支援)
			2 例	・仮設住宅に暮らす住民の生活再建に向けた支援について
2	南相馬市	原町保健センター 会議室	2 例	・パートナーが拒否的である特定妊婦への支援方法について ・養育面が心配な若い母親への関わりについて
			1 例	・精神症状の自覚がなく、周囲が対応に苦慮しているケース
			1 例	・高齢独居者への生活、健康支援の在り方について
合計			8 例	

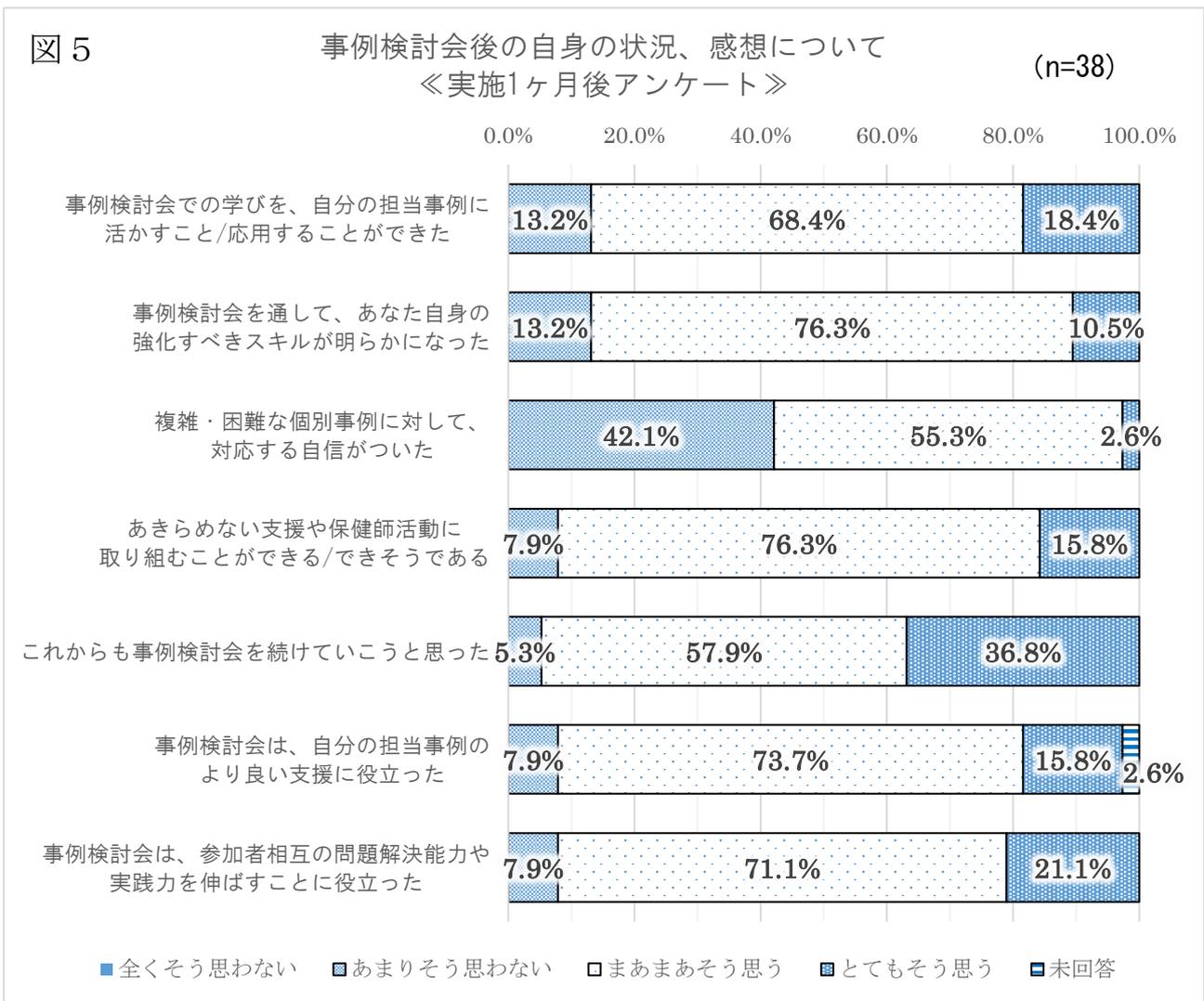
●事例検討会の状況について《実施前、実施後アンケート比較》



●事例検討会での自身の経験について《実施前、実施後アンケート比較》



●事例検討会実施後1カ月後の状況、感想について



7) まとめ

- ・事例検討会には、市町村保健師のみならず、県行政・保健所の保健師の参加が多くあり、20名を超える参加者が参集した会もあった。
- ・相馬市、南相馬市のアンケート結果で、1回目の検討会では実践力アップ事例検討会の枠組みや方法について理解することができた、2回目の検討会では情報の整理やアセスメントの方法の理解が進んだと回答があり、回数を重ねることによって学習の効果が深まったことが伺えた。
- ・また、相馬市、南相馬市のアンケート結果で、「事例検討会は、貴組織にとって役に立ったか」「事例検討会は、貴組織のニーズと合致していたか」について、概ね9割以上の参加者が「はい」と回答しており、参加者のニーズに応えることができた事業であった。

4.様々な取り組み



1) 被災3県看護協会との情報交換会

(1) 概要

被災3県看護協会にて、これまで本会が取り組んできた東日本大震災復興支援事業をふまえ、各被災地における看護の現状や求める支援について情報交換し、平成28年度以降の支援のあり方を検討する足掛かりとした。

(2) 目的

意見交換を通して、平成28年度以降、次なる5年間の支援のあり方について、今後の本会支援方針検討の一助とする。

(3) 内容

会場：各都道府県看護協会会議室（各県1回：2時間程度）

参加者：①県看護協会会長、災害・復興担当理事、各職能委員長

②県行政担当者（看護関連担当）

③本会役職員

日時：7月28日（宮城県）

7月29日（岩手県、福島県）

議題：①県看護協会におけるこれまでの復興支援について

②日本看護協会におけるこれまでの復興支援について

③被災地の看護を取り巻く現状や課題

④今後の復興支援について

2) 協会ニュース「復興に向かって～看護の力」の連載

(1) 概要

協会ニュース平成28年1月号から3月号において「復興に向かって～看護の力」の連載が3回掲載された。本連載は、岩手県、宮城県、福島県の被災地における看護職の活動を月毎に紹介する内容で、岩手県、宮城県、福島県看護協会と協働の下、実施した。

(2) 目的

今年度で東日本大震災の発災から5年目を迎えることをふまえ、これまで被災地で復興支援に尽力してきた看護職に焦点を当て、現在の状況や復興に向けた取り組みを紹介することを目的とした。

(3) 内容

掲載月	都道府県／対象 取材施設	記事内容
1月	宮城県／看護師 南三陸病院	宮城県沿岸部の病院に勤務する看護師、看護管理者に、これまでの活動や現在の様子取材した。今年度、東日本大震災復興支援事業で学会に参加した看護職の参加した感想やその後の取り組みについても掲載。
2月	岩手県／助産師 久慈病院	岩手県沿岸部の人材育成の現状や教育的な取り組みについて取材した。震災の体験を機に、被災地となった故郷での就業を決心した助産師や、分娩件数が減少する中での研修派遣等の取り組みについても掲載。
3月	福島県／保健師 相双保健福祉事務所	福島県沿岸部で原発事故により被災した地域の保健活動の現状や住民の現在の様子取材した。現在も仮設住宅に暮らす住民の支援活動や、保健師の人材育成に関する取り組みについても掲載。

3) 座談会「東日本大震災から5年。復興を支えた看護の力」の実施

(1) 概要

今年度、東日本大震災から5年を迎える。現在も被災地で活動を継続する看護職の今を発信するため、岩手県、宮城県、福島県の看護職と本会会長による座談会を開催した。本座談会の内容は、平成28年3月11日の読売新聞全国版朝刊に掲載され、全国に発信した。

(2) 内容

開催場所：宮城県仙台市内のホテル

参加者：岩手県（岩手県立大船渡病院、助産師）

宮城県（名取市保健センター、保健師）

福島県（公立財団法人磐城済世会舞子浜病院、看護師）

日本看護協会会長、坂本すが

日本看護協会常任理事、中板育美（司会）

テーマ：①各人の現在の活動についての紹介

②発災から5年経過後の被災地の看護の変化

③震災の経験を通しての自身の変化

④今後、目指していきたいこと

⑤全国に伝えたいこと

4) 各フォーラム等への参加

(1) 福島県看護協会主催 「復興フォーラム：未来につなぐ福島の看護」

- ①開催日：平成 28 年 3 月 5 日 10：00～15：30
- ②会場：福島県看護協会 みらいホール
- ③参加者：福島県内の看護職約 200 名、各都道府県看護協会会長、来賓、
日本看護協会役員
- ④プログラム：
 - 開会あいさつ、来賓祝辞
 - 復興支援報告（福島県看護協会、日本看護協会）
 - 「震災を振り返り今を語る」6 支部からの報告
 - 癒しの音楽 フルートの演奏
 - シンポジウム 「未来につなぐ福島の看護 ～伝えたい震災から学んだこと～」
 - 「復興への歩み」
 - フォトストーリー
 - 未来へのメッセージ

福島県看護協会主催の復興フォーラムへ出席した。復興支援報告では、福井常任理事より、日本看護協会の 5 年間の東日本大震災復興支援事業の取り組みについて報告があった。6 支部からの報告では、福島県内の各支部より、地域の現状や看護職の取り組みが報告され、復興の状況と特に沿岸部では看護職の人材確保について多くの課題が問題提起された。

シンポジウムでは、福島県行政、福島で就業する保健師、助産師、看護師から「未来につなぐ福島の看護」としてこれからの取り組みについて報告があった。会場からは、「震災を防ぐことはできないが、経験を生かし減災に取り組むことができる」と発言があり、震災の経験を踏まえた福島県の地域包括ケアの充実によって住民の健康と生活を支援していくことが確認された。

(2)宮城県看護協会主催 「震災フォーラム」

- ①開催日：平成 28 年 3 月 12 日 10：00～15：45
- ②会場：宮城県看護協会 看護研修センター
- ③参加者：宮城県内外の看護職約 200 名、来賓、日本看護協会職員
- ④プログラム：
 - 開会、あいさつ
 - リレートーク 「それぞれの部署の看護職が果たした役割と今後への発信」
 - 宮城県沿岸部で就業する看護職 9 名による報告
 - ワールドカフェ 「自分の経験の学びを伝え、未来につなげよう」
 - DVD 上映
 - 「震災フォーラム」アピール

宮城県看護協会主催の震災フォーラムへ出席した。冒頭、宮城県看護協会佀会長の挨拶では、これまでの取り組みや震災で得た教訓を発信し、共有していくことについて話された。リレートークでは、自らも被災しながらも被災地で活動をつづけてきた 9 名の看護職より、震災当時の状況や看護職としての活動、現在の状況について報告があった。

ワールドカフェでは、「自分の経験の学びを伝え、未来につなげる」をテーマに、看護職として取り組んでいけること、発信していけることをディスカッションした。フォーラムの最後には、佀会長より、防災・減災に向けた発信として、訓練や平常時の地域ネットワークの重要性が「震災フォーラムアピール」として宣言された。

(3)宮城県看護協会主催 「被災地視察」

①実施日：3月13日

②移動手段：バス

③視察行程：

A 石巻方面≪女川町、石巻市≫（参加者約80名）

・女川町視察

○語り部ガイド乗車

女川町地域医療センター（献花）

女川被災地視察（シーパルピア女川等）

・石巻市視察

○語り部ガイド乗車

石巻被災市街地視察（石巻市立病院等）

石巻日赤災害医療センター（看護部長から病院概要等の説明）

B 気仙沼方面≪南三陸町、気仙沼市≫（参加者約40名）

・南三陸町視察

○語り部ガイド乗車

南三陸町防災対策調査（献花）

南三陸被災地視察（戸倉中学校、南三陸病院）

・気仙沼市視察

○語り部ガイド乗車

気仙沼被災地視察（鹿折中学校等）

視察は、震災当時、災害支援ナースとして被災地沿岸部に支援に入った看護職と、5年が経過した被災地の復興の現状を確認し、今後の学びにつなげることを主旨とした。各ルートにおいて、被災後、新設した病院の施設見学や献花、被災地域および施設の視察、また、語り部による大震災に関する講話が行われた。

被災地沿岸部では、震災後5年を経過したが、更地が多く、被災した建物も当時のままという状況があった。新設された病院では、地域住民が交流しくつろげる場を作り、医療だけでなく地域住民の生活の再構築を支援していた。看護職員の不足が依然問題となっており、被災地での取り組みや地域の魅力を発信する支援等を継続し、全国の看護職へつなげていくことの重要性を再確認した。

Ⅲ. 東日本大震災復興支援事業の今後の課題

平成 25 年度から 3 年間、東日本大震災・原子力発電所事故の被災地で就業する看護職の教育支援として、日本看護学会学術集会参加支援事業を実施してきた。事業 3 年目を経過し、当時の体験を乗り越え、教訓に変え、学会参加者へ自らの思いを語る参加支援者の姿が多くみられるようになったものの、依然として被災地沿岸部の医療機関において人材不足とスタッフの高齢化が問題となっている。

被災県内においても、被災地域と都市部の震災や復興に対する温度差があるとされている現状もあり、被災地の看護の現状、沿岸部での就業・生活の魅力の情報発信を支援していく事業が重要になる。被災県内の看護学生や被災地での就業に関心がある看護職の沿岸部への就業意欲の向上を図り、地域医療の基盤となる看護人材確保・定着支援を推進していく。

Ⅳ. おわりに

東日本大震災復興支援事業は、震災によって甚大な被害にあった被災地のニーズに合わせ取り組んできた。発災から 5 年を経過する今、依然、被災地では複雑化する被災住民の健康問題に対して、看護職は住民のニーズに応じ試行錯誤しながら対応している。引き続き、被災地での看護職の取り組みや、様々な団体による支援に関する情報を収集するとともに、今後、被災地域や各都道府県看護協会が自らの力で工夫しながら取り組めることを共に考え、被災地の未来へ向けた歩みを支え共に歩む支援を継続していく。

5. 參考資料

日本看護学会－学術集会への参加支援アンケート

(〇〇・〇〇〇) 平成 27 年〇月〇日～〇日

この度は、日本看護学会－学術集会参加支援事業にご参加いただき、ありがとうございました。

今回の学術集会参加について、アンケートのご協力をお願いします。今後の支援の参考にさせていただきたいと思いますので、ぜひ皆様のご意見をお聞かせ下さい。

【該当するものに、○をつけてください】

問 1. これまで日本看護学会－学術集会に参加したことはありますか？

1 ある

2 ない



あると答えた方は、開催場所について該当する番号に○をつけてください。

1 県内

2 県外

問 2. 東日本復興支援ブースでの発表について(複数回答可)

1. 自分の看護実践を考える機会となった
2. 被災地の現状や、自分の看護実践について伝えることができた
3. 他の地域の人と話をして、情報交換ができた
4. 関心をもって聞いてもらえた
5. 他の人の発表を聞いて、内容や発表の仕方など参考になった
6. このような機会をもっと設け、多くの人に被災地のことを伝える必要がある
7. 機会があれば学会－学術集会でも発表したい
8. 被災地以外の人への関心は低くなっている
9. 震災を思い出し、つらかった
10. その他



問 3. 学術集会で得られた知識を、今後どのように生かしていきたいですか？(複数回答可)

1. 自身の看護の知識や技術の向上
2. 患者や利用者のケアや支援の実践
3. 自施設での教育や指導に役立てたい
4. 自施設の業務の見直しをしたい
5. 更に知識を深めるために、研修や勉強会に参加したい
6. 看護研究に取り組んでみたい
7. 学術集会参加を職場の人にもすすめたい
8. 今後の自身の方向性に生かしたい
9. その他



裏もご記入ください



問 4. 学術集会に参加して、どのように感じましたか？ 以下の項目について、1～4 の中で最も該当する番号 1 つに○をつけてください。

1. 最新の情報が得られた	4	3	2	1	4 とてもそう思う
2. 興味のある内容を聞くことができた	4	3	2	1	3 まあそう思う
3. スキルアップにつながった	4	3	2	1	2 あまり思わない
4. 日頃の自分の活動を振り返ることができた	4	3	2	1	1 全く思わない
5. 活動の視野が広がった	4	3	2	1	
6. 自施設以外の人と話ができ、情報が得られた	4	3	2	1	
7. 違う土地に来て、気分転換になった	4	3	2	1	
8. 仕事に対して意欲がわいた	4	3	2	1	
9. 看護職として学び続けることが必要だ	4	3	2	1	
10. 今後も学術集会への参加支援をしてほしい	4	3	2	1	

問 5. 懇親会に参加して、どのように感じましたか？

1. 震災時の情報を共有できた
2. 他の地域の看護職と話ができ、励みになった
3. 看護の良さを改めて認識した
4. 人と話をすることで振り返りができた
5. このような機会をもっと設けてほしい
6. 看護協会を身近に感じた
7. 震災を思い出し、つらかった
8. その他

()

問 6. 今回の学術集会参加について、後日、自施設等で報告や伝達する機会がありますか？

1. ある 2. ない 3. 未定



あると答えた方は、どのような場所ですか？

1. 自施設 2. 県看護協会 3. 院外（地域など）での報告会
4. その他（ ）

問 7. 今後参加支援をしてほしい学術集会の領域に、○をつけてください。

1. ヘルスプロモーション 2. 慢性期看護 3. 看護教育 4. 看護管理
5. 在宅看護 6. 精神看護 7. 急性期看護

問 8. 今後、日本看護協会や復興支援事業に期待することがありましたらご記入下さい。

ご協力ありがとうございました！

日本看護協会 東日本大震災復興支援室

※このアンケートは○/○(○)12:00 以降に復興支援室 担当者までご提出ください。

日本看護学会-ヘルスプロモーション-学術集会

東日本大震災復興支援事業交流集会「災害支援とまちづくり」アンケート

この度は、交流集会「災害支援とまちづくり」にご参加頂きありがとうございました。

今後の支援の参考にさせていただきたく、アンケートのご記入にご協力下さい。

あなた自身についてお聞かせ下さい。(該当するものに○をつけて下さい)

- 職種 : 看護学生 保健師 助産師 看護師 准看護師
■年齢 : 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上
■現在勤務(在学)している所属先の都道府県名:()

問1. 本日の交流集会に参加した理由について、該当するものに○をつけて下さい(複数回答可)

1.	発表者の実践報告が聞きたかったため	2.	被災地の看護の現状を知りたかったため
3.	被災地域に勤務しているため	4.	災害支援について関心があったため
5.	自分が支援を行うための参考にしたいため	6.	災害時の対応について知りたかったため
7.	その他 ()		

問2. 交流集会の内容について、該当する選択肢に○をつけ、感想を下枠内にご記入下さい

		選択肢			
		とても そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
1.	災害発生時の看護職の活動がわかった	4	3	2	1
2.	中・長期的な看護職の活動がわかった	4	3	2	1
3.	被災地の現状や課題がわかった	4	3	2	1
4.	災害支援への関心が高まった	4	3	2	1
5.	今後の災害時対策の参考になった	4	3	2	1
6.	まちづくりへも関わることの重要性がわかった	4	3	2	1

《感想》

()

問3. その他、ご意見など自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました
日本看護協会 健康政策部 東日本大震災復興支援室

事例検討会に関する評価および情報収集

問1. 今までに参加した全ての事例検討会でのご自身の経験についてお伺いします。

※該当する箇所にチェック☑を付けてください。

- 1) これまでに事例検討会に参加した経験がある.....はい いいえ ➡「いいえ」の場合、問4へ
 2) 事例検討会でご自身の担当事例を検討したことがある.....はい いいえ

※該当する番号に○を付けてください。

質問項目	選択肢			
	4 とてもそう 思う	3 まあまあ そう思う	2 あまりそう 思わない	1 全くそう思 わない
3) あなたは、事例提供者の事例について、自分の担当事例のこととして考え、検討している	4	3	2	1
4) あなたは、事例検討会を通して、ご自身の事例の捉え方やアセスメントの傾向を、客観的に認識している	4	3	2	1
5) あなたは、事例検討会での学びを、自分の担当事例の支援に活かしている/応用している	4	3	2	1
6) 事例検討会を通して、あなた自身の強化すべきスキルが明らかになった	4	3	2	1

問2. 今までに参加した全ての事例検討会の状況についてお伺いします。

質問項目	選択肢			
	4 とてもそう 思う	3 まあまあ そう思う	2 あまりそう 思わない	1 全くそう思 わない
1) 事例に関する情報を、事実 ^{注)} と想像/印象 ^{注)} に意識的に整理していた	4	3	2	1
2) 事実に基づいてアセスメントしていた	4	3	2	1
3) 参加者全員が、アセスメントを言語化していた	4	3	2	1
4) アセスメントに基づき、支援目標や具体的な支援計画を決定していた	4	3	2	1

※注) 事実とは、客観的事実及び、客観的事実と判断されたこと。(例:直接確認できたこと)

※注) 想像/印象とは、客観的事実ではないと判断されたこと。(例:情報源が不明確なこと、推測されたこと)

問3. 「実践力アップ事例検討会」でのご自身の経験についてお伺いします。

- 1) 「実践力アップ事例検討会」に参加した経験がある.....はい いいえ ➡「いいえ」の場合、問4へ
 2) 「実践力アップ事例検討会」で検討した事例数について該当する番号に○を付けてください。
 ①1～2例 ②3～4例 ③5～6例 ④7例以上 (ご自身が提供した事例以外の事例検討を含みます)

問4. あなたのご所属、職種をお伺いします。※該当する番号に○を付けてください。括弧内はご記入ください。

- 1) 所属先: 1. 市町村 2. 地域包括支援センター(直営/委託) 3. 都道府県(本庁・保健所)
 4. 保育所 5. 幼稚園・学校 6. 民間団体
 7. その他 ()
 2) 職 種: 1. 専門職: ①保健師、②助産師、③看護師、④栄養士、⑤保育士、⑥教職、⑦その他 ()
 2. 一般職
 3. 上記以外 ()

《保健師の方へ》

通算での経験年数について該当する番号に○を付けてください(平成27年4月1日時点、休職中は除く)

1. 5年未満 2. 5～10年未満 3. 10～20年未満 4. 20～30年未満 5. 30年以上

ご協力いただきありがとうございました。
 【担当事務局】日本看護協会 健康政策部

事例検討会に関する評価及び情報収集

1. 今回参加した実践力アップ事例検討会についてお伺いします。

以下の項目について、該当する番号に○を付けてください。

1) 今回参加した実践力アップ事例検討会の状況について

質問項目	選択肢			
	4	3	2	1
	とてもそう 思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
(1) 事例に関する情報を、事実 ^{注)} と想像/印象 ^{注)} に意識的に整理することができた	4	3	2	1
(2) 事実に基づいてアセスメントすることができた	4	3	2	1
(3) 参加者全員が、アセスメントを言語化できた	4	3	2	1
(4) アセスメントに基づき、支援目標や具体的な支援計画を決定することができた	4	3	2	1

※注) 事実とは、客観的事実及び、客観的事実と判断されたこと。(例:直接確認できたこと)

※注) 想像/印象とは、客観的事実ではないと判断されたこと。(例:情報源が不明確なこと、推測されたこと)

2) 今回参加した実践力アップ事例検討会でのご自身の体験について

質問項目	選択肢			
	4	3	2	1
	とてもそう 思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
(1) 「事実に基づきアセスメントし、そのアセスメントに基づき、支援目標や支援計画を決定する」というプロセスの意義を理解することができた	4	3	2	1
(2) あなたは、今回の事例検討会を通して、ご自身の事例の捉え方やアセスメントの傾向を、客観的に認識することができた	4	3	2	1
(3) あなたは、事例検討会での学びを、自分の担当事例の支援に活かすこと/応用することができそう	4	3	2	1
(4) 事例検討会を通して、あなた自身の強化すべきスキルが明らかになった	4	3	2	1
(5) [※事例提供者以外の方に伺います] あなたは、事例提供者の事例について、自分の担当事例のこととして、考え検討できた	4	3	2	1

3) 上記、2)の(4)で、「とてもそう思う」「まあまあそう思う」とご回答の方に伺います。

実践力アップ事例検討会に参加して気づいた、「強化したいご自身のスキル」についてその内容をお書きください。

(裏面に続く)

事例検討会に関する評価及び情報収集

1. 「実践力アップ事例検討会」2 回目終了 1 カ月後の状況についてお伺いします。

1) ご自身の状況・感想について 以下の項目について、該当する番号に○を付けてください。

質問項目	選択肢			
	4 とてもそう 思う	3 まあまあ そう思う	2 あまりそう 思わない	1 全くそう思 わない
(1) 事例検討会での学びを、自分の担当事例の支援に活かすこと/応用することができた	4	3	2	1
(2) 事例検討会を通して、あなた自身の強化すべきスキルが明らかになった	4	3	2	1
(3) 複雑・困難な個別事例に対して、対応する自信がついた	4	3	2	1
(4) すぐには解決できない問題に対しても向き合い、あきらめない支援や保健師活動に取り組むことができる/できそうである	4	3	2	1
(5) これからも事例検討会を続けていこうと思った	4	3	2	1
(6) ※[事例提供者として参加した方に伺います] 事例検討会で、具体的にになった支援計画を実践に活かすことができた	4	3	2	1

(7)上記の(2)「自身の強化すべきスキルが明らかになった」について、「とてもそう思う」「まあまあそう思う」とご回答の方に伺います。

スキル強化に向けて、現在取り組んでいることがございますか。何か取り組んでいる場合、その内容をお書きください。(例: アセスメントの学習等)

2) 企画・実施について 以下の項目について、該当する番号に○を付けてください。

質問項目	選択肢			
	4 とてもそう 思う	3 まあまあ そう思う	2 あまりそう 思わない	1 全くそう思 わない
(1) 事例検討会は、自分の担当事例のより良い支援に役立った	4	3	2	1
(2) 事例検討会は、参加者相互の問題解決能力や実践力を伸ばすことに役立った	4	3	2	1

(3)事例検討会は、貴組織にとって役に立ちましたか。該当する箇所にチェック☑し、回答の理由について枠内にご記入ください。

はい いいえ

【理由】回答の理由

(4)事例検討会は、貴組織のニーズと合致していましたか。該当する箇所にチェック☑し、回答の理由について枠内にご記入ください。

はい いいえ

【理由】回答の理由



『復興フォーラム 未来につなぐ福島の看護』
平成28年3月5日



5年間の復興支援報告

公益社団法人
日本看護協会

私たちは あの日を 忘れない



ビッグパレット福島(避難所)

災害支援ナース派遣調整
派遣者数:938名
延べ:3,770名



災害支援金・罹災見舞金について (H23年～24年)



東日本大震災災害支援金配分事業 (H24年～26年)

＜目的＞

被災者支援や訪問看護事業の活性化等の事業に助成し、被災地域の復興に貢献する。

＜対象事業＞

- 被災した住民の支援事業 (イベント型・地元定着型)
- 訪問看護ステーションの再建事業

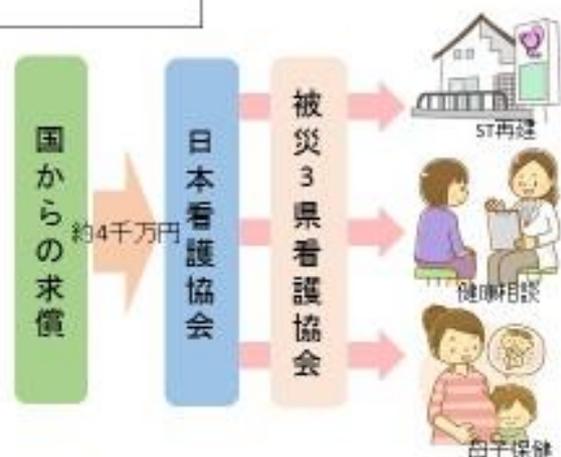
＜配分団体＞

岩手県 (10団体)
 宮城県 (13団体)
 福島県 (13団体)
 計36団体に支援金を配分 (配分先は公募)

＜事業実績＞

- 訪問看護ステーションの再建事業 (13件)
- 妊産婦母子支援事業等 (5件)
- 被災住民への支援事業等 (4件)
- 被災者支援活動写真展事業等 (3件)
- リラクゼーション事業等その他 (11件)

公益社団法人 日本看護協会



中央省庁への要望活動

	宛先	被災地支援等に関する主な要望事項
平成23年 5月26日	厚生労働省医政局長	被災した看護職およびその他の医療従事者、保健医療施設への支援の推進
7月6日	民主党健康政策対応本部長	被災した看護職および他の保健医療従事者、保健医療施設への支援の推進
7月11日	民主党看護議員連盟会長	1) 医療機関等の職員確保の推進 等
9月28日	民主党幹事長	被災した看護職等の保健医療従事者、保健医療施設への支援
10月3日	厚生労働大臣	
10月5日	内閣総理大臣	
10月27日	公明党代表	
11月17日	自由民主党	
平成24年 4月26日	衆議院 災害対策特別委員会委員長	保健・医療における災害支援の体制整備

現在も、与党委員会や被災者健康支援連絡協議会等へ参加し情報発信に努めています。

復興フォーラム2014開催

3.11東日本大震災から3年を迎える2014年2月11日、
復興フォーラム2014「被災地の看護は、いま」を開催

震災後から現在まで被災地で活動を
続けている4名の看護職のレポート、
ゲストによるトークショーを行いました。



参加者：831名

公益社団法人 日本看護協会

5

平成24年度 福島県相双地区にある医療機関における「看護の質向上プロジェクト」の実施

プロジェクト対象：
福島県南相馬市にある約200床の総合病院(医療法人)

内容：

- 日本看護協会認定看護師教育課程(感染)の教員を派遣(平成24年10月～平成25年3月)
- 講義や演習による実技指導等の教育支援(17回:6ヵ月)



プロジェクト成果

平成24年 <JNA事業>

- ① 学習意欲の向上
- ② 看護実践スキルの向上
- ③ 「看護力向上支援事業」の展開(県の事業化)

施設での成果から
県の事業化へ

平成25年 <県事業>

<県事業のスタート>

- ① 就業中の准看護師が看護師2年過程を受講(6人)
- ② 在職する他の准看護師も受講の希望あり

職員の意識改革

平成26年 <県事業>

- ① 看護師2年課程受講の准看護師6人、今年度の看護師国家試験を受験
- ② 入院基本料10対1を問題なく満たす体制になった
(ただし本来の稼働病床ではない)

看護提供体制の
充実

県事業は今年度も継続

- 看護の質向上を図ることによって、地域の看護提供体制がより充実
- 被災地域における、質向上支援、人材育成支援に効果

公益社団法人 日本看護協会

6

災害時の周産期医療に関する情報収集・情報発信 および分娩施設等への支援

被災地の状況を把握するための被災地訪問や、分娩施設への調査を急遽行うと同時に、平成24年には「周産期における災害対策シンポジウム」を開催。

今回の出来事からの教訓を
行動に起こすため

安全で安心な出産環境整備に関
する検討委員会の下に、ワーキン
ググループを設置

平成25年
「分娩施設における災害発生時の
対応マニュアル作成ガイド」を制作



公益社団法人 日本看護協会

7

保健師の実践力強化に向けた 事例検討会定着化支援 (H24年～H27年)

《目的》

- ▶ 沿岸部での複雑・困難化する事例への個別対応における保健師の専門的実践力の強化
- ▶ 自組織内での事例検討会開催の定着化による人材育成の基盤づくり

《事業内容》

- 「実践力アップ事例検討会」の開催支援
- ・各自治体で年2回の検討会、計4事例程度の事例検討を実施
 - ・日本看護協会より、ファシリテータ等を派遣し支援

《事業実績 (H24～27)》

参加自治体: 11か所 (累計)
参加者数: 295名 (延べ)
検討事例数: 47事例



相馬市にて(平成27年度)



南相馬市にて(平成27年度)

公益社団法人 日本看護協会

8

日本看護学会学術集会への参加支援 (H25年～H27年)

《目的》

- 学術集会へ参加し、最新の看護の動向に触れ新たな知見を得るとともに、日々の看護の振り返りと、今後の活動を考える機会とする
- 被災地での取り組みを来場者へ広く周知し情報を発信する

《事業内容》

- 岩手県、宮城県、福島県の被災地に就業する看護職を対象として、日本看護学会学術集会への参加に係る費用の支援(参加費・交通費等)
- 東日本大震災復興支援ブースの設置および看護実践発表

実践発表

「被災地からの発信「命と暮らしを支える看護」
多くの方が耳を傾けてくれました。」



会場に設置されたメッセージボックスには
学会に参加された全国の方々から、
あたたかいメッセージが数多く寄せられました。 公益社団法人 日本看護協会

《事業実績(H25～27)》

参加領域: 11領域(累計)

(慢性期、精神看護、在宅看護 等)

参加者数: 180名(延べ)

※うち、福島県から47名

これからも日本看護協会は 皆様とともに歩みつづけます

震災での学びと看護職の働きを忘れず、被災地の5年間の変化を見据えながら、「医療と生活を支える」という使命を胸に、看護職と住民の皆様をサポートし続けます。

福島県いわき市舞子浜病院の斎藤さんにご参加いただきました。



座談会を開催しました。
3月11日刊行の読売新聞
朝刊に掲載されます。



公益社団法人 日本看護協会

10

平成 27 年度 東日本大震災復興支援事業実施報告書

発行日 2016 年 3 月 31 日
編集 公益社団法人 日本看護協会 健康政策部
発行 公益社団法人 日本看護協会
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2
TEL 03-5778-8831(代表)
FAX 03-5778-5601(代表)
URL <http://www.nurse.or.jp>

※本書からの無断転載を禁じる